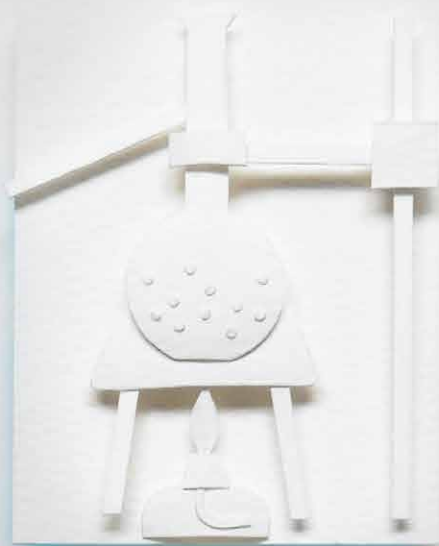


篁

会報 2017 No.28

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会



特集：竹早生のDNA

篁会総会・講演会・懇親会のご案内	1	われら 115 回生	19
篁会会長・竹早高校校長挨拶	2	第 9 回特別セミナー実施報告	21
特集：竹早生の DNA	3	平成 28 年度「篁会総会・懇親会」報告	23
第 10 回篁寿会開催	11	関西篁会だより・湘南篁会だより	24
城戸崎元会長図書寄贈・東京校歌祭のお知らせ	12	篁会教育基金・奨学生認証式報告	25
謎解きクロス® 竹早探偵物語	13	学校の活動報告	26
竹早祭レポート～お休み処たかむら～	16	理事会報告	27
懐かしの先生を訪ねて	17	委員会からのお知らせ	30

平成29年度

篁会総会のご案内

日時:2017年6月17日(土)

総会 15:30 ~ 16:30
(受付開始 15:00~)

講演会 16:30 ~ 17:30

懇親会 17:30 ~ 19:30

会場:ホテル東京ガーデンパレス 高千穂の間

(文京区湯島1-7-5 TEL03-3813-6211)



会場アクセス

- ◆ご出席のかたは、同封のハガキでお申込みください。
- ◆懇親会に参加のかたは、同封の郵便局の払込取扱票、または28ページでご紹介のクレジット決済により、会費をお振込みください。

懇親会費 **7,000円**
(平成26~29年卒生は**2,000円**)
お申し込み締切 **6月2日(金)**

今回幹事 高校27回生・昭和50年卒
次回幹事 高校28回生・昭和51年卒

《講演会のお知らせ》

デザイン心理学でよりよい社会を

講師 **日比野治雄氏** (高校27回生)

千葉大学大学院工学研究院融合理工学府デザインコース
デザイン心理学研究室・教授
(株)BB STONEデザイン心理学研究所技術顧問



「デザイン心理学」の名称を冠する研究室は、日本の大学では私のところだけです。現在、その知財を利用し、ベンチャー活動も行っています。講演ではその具体例を挙げながら、デザイン心理学によって、どのようによりよい社会の実現に貢献しようと考えているのかについてお話します。

東京大学文学部心理学科卒業、カナダ・ヨーク大学大学院博士課程修了(Ph.D.取得)後、日本学術振興会特別研究員(PD)(東京大学教養学部)、千葉大学教養部講師、千葉大学教養部助教授、千葉大学工学部助教授(配置換)を経て2000年より現職。

ダボスから見える日本

講師 **西村慶介氏** (高校27回生)

キリンホールディングス株式会社代表取締役副社長
兼キリン株式会社常務執行役員
(担当業務:事業提携・投資戦略・海外事業)



ダボス会議では、地球規模の課題について熱心な議論が行われる。2013年から5年間にわたり、会議に出席し、そこで見える世界の潮流と日本の課題について、個人的な感想も交えながら紹介。時間が許す範囲で日本のビール、世界のビールの話にも触れてみたい。

福岡県大牟田市生まれ。横浜国立大学経営学部卒業後、キリンビール(株)入社。その後、海外留学、事業開発、人事、社長秘書、経営企画、上海駐在、マニラ駐在等を経て現職。趣味はテニス、バイオリン、料理、菜園。



ご挨拶

箆会会長 古関恵一

日本の社会が少子高齢化に向かう中、箆会でも、働きつつ同窓会に関わって頂いている方が増えています。それらの方々には多忙の中、御参加されています。改めて活動への御理解と御協力に感謝致します。さて、「相互交流は様々な機会が増えており、様々な企画・準備段階が良い刺激となっている」との話をお聞きます。箆会会員には「真面目さ」「ひたむきさ」「深いこだわり」であったり、「自らの内面への沈潜」であったり、共通点があると感じます。これらを少し考えたいと思います。

古い言葉ですが「いざ鎌倉」という言葉があります。自分を磨き、人事を尽くして天命を待つという考え方だと思います。それも、一般的な「努力」というより、まずは具体的な問題・課題を把握して見据える、都会的な先鋭な感覚が合わさっていると感じます。しかし、「運」の要素も甘受しつつ、結果としての目的達成や成果にこだわっている訳ではない。失敗の危険や受け入れられない覚悟も盛り込んでいる。

このような感覚が、第二高女・竹早高校生のこころの奥底にあるように感じます。

実際、同窓会での交流は、「今の肥やしになる」「自分を見つめる機会になる」「視野が広がった」との声を聞くのも、単に自分の高女時代・高校時代の思い出話に浸るよりも、イシューとしてものごとを見つめる・未来を見つめる、箆会の皆様の生真面目で真摯な精神世界に拠っているかもしれません。

例えば「高い山の山頂に物理的に行くだけならヘリコプターで行けば良い、しかし我々の人生は違う。高山植物を愛でて歩くことに価値がある」と同窓生で盛り上がることもありました。また第二高女の先輩方から「日本の未来を見てみたいのよ」と話を伺いました。別々に歩んでいる人間が隣を見ると、「編隊飛行」をしている同窓生に出会う、その衝撃から出た言葉と感じます。

皆様は、いかがお感じになられますか。皆様も、箆会の各種活動に足を運んでいただきたいと思います。



進学校として一段と飛躍する竹早高校にご期待ください

竹早高校校長 高田 純一

本校4年目になりました。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

平成29年度から竹早高校が大きく変わります。具体的な変更点について説明します。

かつて、土曜日は「半ドン」と呼ばれ、午前中は仕事、午後は休みという時代が長く続きました。ところが、1980年代から週休2日制が社会に広がり、平成14年度から学校も「完全週五日制」に移行しました。すると、それまで土曜日を含めて週34コマあった授業が30コマに減ってしまい、教育課程を編成することが困難になりました。そこで考え出されたのが、5分を犠牲にしても週35コマ確保できる「45分×7時間授業」であり、本校では、平成15年度から採用してきました。

しかし、近年、土曜授業を復活させる学校が増えてきており、「45分×7時間授業」はその役目を終えようとしています。本校も14年間続いた「45分×7時間授業」と決別し、平成29年4月から、「50分×6時間授業」及び「年間20回の土曜授業」に移行しました。また、平成27年度から導入の新カリキュラムにおいては、2年次から文理分けを行うとともに、3年次の自由選択を20単位から6単位に圧縮し、3年生も全員朝から登校させ、学校でガッチリ面倒を見る体制を確立しました。

以上のような学校改革の趣旨が中学生とその保護者に広く受け入れられた結果、竹早高校の人気は急上昇し、中学校長会で実施した平成29年度志望予定調査では、男女ともに全都で2位（男子2.10倍、女子2.49倍）という高倍率となり、都民の耳目を驚かせました（実は平成28年度受検生の人気も高かったのですが、増学級のため目立たなかったのです）。また、人気が高いだけでなく、入学者の実力も上昇しており、今後の進路結果が飛躍的に向上すると期待しています。学校側としても、これらの「原石」に磨きをかけ、光り輝く「宝石」に育てなければならぬと決意を新たにしています。

今年度も箆会の皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

もしも今 高校時代にタイムスリップしたら、何がしたい？

全員に聞いてみました。今、もう一度、あの時代に戻たらいちばんやりたいこと。

第1位は「勉強」

男女ともに回答の4割を超えてトップを占めました。高校時代では足りなかったという“もっと派”、当時とは異なる“違うジャンル派”、それぞれこんな声が。

「勉強！ 当時はしなかったから」

「もっと勉強しとけば（人生変わったかも）…」

「もう少し、勉強を頑張りたいと思う」

「なぜあれほど勉強から逃げたのか？」

「物理や化学をあきらめないで、理系の道に進みたかった」

「理系に進んでエンジニアになったら、どうだっただろう」

「もっと歴史、倫理・社会を勉強しておけばよかった」

“教養”や“スキル”を身につけていれば、もっと人生の幅が広がったと悔やむ人も。

「この歳になっても、役立つものはベーシックな知識や考え方、経験といったものです」

「古典・歴史・芸術に親しみ、教養を深める」

「受験のためだけじゃない勉強を…」

「1年生から、もっと勉強する。特に英語を」

「英会話！ 仕事で海外に行っても、苦勞が多い…」

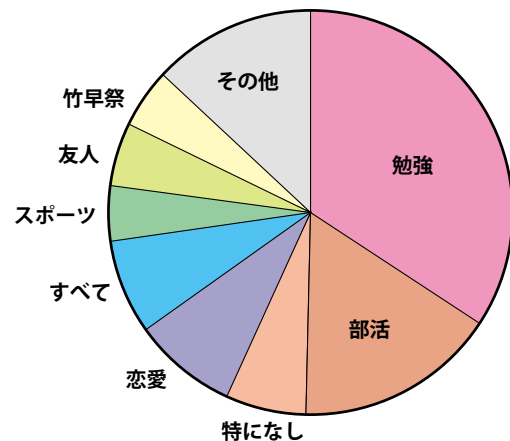
あのころ

1972年4月～1975年3月

ツィッギーの来日以来、男子の目を楽しませ、悩ませていたミニスカートからのぞく女子の脚が、ロングスカートの流行で突然隠されてしまった。

肩まで伸びる男子のロングヘアも、ダサイファッションの象徴となり、学園紛争でヘルメットをかぶった先輩たちの残像は、凍りついた山荘を砕いた巨大な鉄球とともに消えて行った…。

田中角栄が「日本列島改造論」を引っ提げて政権につくも、石油ショックで母親たちはトイレトパーを求めて東奔西走。長嶋茂雄が引退し、ベルばらが一世を風靡したそんな時代。



有効回答：87（重複回答あり）

これは思い出したくもない人もいるかと思いますが（笑）
「過度計算*をもう一度やってみたい」

*地学・金子先生の最初の授業の宿題で出され、高校生が電卓を持てなかった当時、パルコの売り場に行って計算をした。

第2位は、「部活動」

今から考えれば、学生時代ならではのことでした。もっと真剣に打ち込めばよかった、そのときにしかできなかったことを、やればよかった…（社会人になってからも活動を続けた人もいます）。

「男女ラグビー部創立！」

「ダンス部に入りたい」

「生物部で生き物とふれあい三昧」

「運動系のクラブに入ってスポーツをしたいです」

「事情があり途中でやめてしまったので最後まで続けたい」

今でも思いが残っていることも…。

「野球部で最後に負けた向丘との試合をもう1回やりたい。延長10回、1-3で負け。今でもたまに夢に見る」

第3位は、「特になし」

「十分に楽しかった！ 心残りなし」

「たら、ればは、ありません!!」

「とにかく高校はおもしろかった。もう一度くり返したい」
充実した高校生活を送った人が、うらやましい限り。

還暦を迎えた学年が担当するこの特集ページ。
竹早高校での日々は、私たちに、何を与えてくれていたのでしょうか。
高校 27 回生担当の今年、特定の誰かにフィーチャーするのではなく、
同窓会でアンケートを配布し、多くのクラスメートに誌面への協力を仰ぎました。

Photo / 池田正一 まとめ / 山岡京子

「ほかのクラスはどうしているんだろう…」21 世紀最初の年もおしまった頃、とあるクラス会で、誰からともなく発せられた言葉、今だったらツイッターで流れたのだろうけれど、それをきっかけに翌 2002 年の夏に、卒業以来 27 年ぶりに 120 名超の同期生が集まり、2004 年から 4 年ごとのオリンピックイヤーに開催されることに。直近は還暦イヤーの昨年 11 月でした。毎回 100 名前後の出席者で旧交を暖めています。



そして、やっぱり「恋愛」したい！

ほぼ半数同士の男女共学、気にならないわけはなかったのに、あのころは、そんな気持ちにふたをして、無理やりほかのことに関心があつたふりをしていたのかも？

「恋愛。やはり彼女がほしかったな」

「バスケットと軽音、そして恋愛」

「女性とまともに話ができなかったの、改めて、同級生とデートしたいです」

「〇〇さんをデートに誘って」

「高校生の純粋なおつきあいをしてみたい。当時は心の中で思うのが精いっぱいだったので、告白もいいかな。でも、たぶんできない…」

当時できなかった、あれやこれや

「戻れるなら、何事にも積極的にとりくんで、高校生活を満喫したという気分を味わいたいです」

「勉強も、クラブ活動も、その他の活動も、改めて一から一生懸命とりくんでみたいです。今思うと、何てボンヤリすごした 3 年間だったことか…」

「過去のすべてをリセット、自らの思いのままに行動したい」

振り返ってみれば、高校時代は、時間があって、何でもできたはず、なのに…。

「米国でも通用するアスリートを目指し、体作りに力を入れ、プロゴルファーになる」

「現行の竹早高校のスポーツ施設を使ってスポーツをしたい (ぼくたちのころの施設は貧弱だった)」

「昔と同じように仲間と遊び、語り合う」

「弦楽器を練習して一生の趣味にしたい」

「竹早祭でバンドを組んでメインボーカルで歌いたい」

「文化祭の打ち上げのフォークダンスを！」

「文化祭をもう一回やりたいです。メイドカフェとか…」

メイドカフェ！！ そんな楽しいことを、あの時代の高校生が思いつけたか？

若いときにしかできないことを

バイトの時給が 300 円、1 ドルは 360 円の時代でした。

「若さを武器に、世界中を旅したい。高校は休学して」

「世界中、せめて日本国内を旅行して、情報を集めたい。」

若者の純粋な気持ちで世界情勢をリアルに感じたいです」

また、なぜか覚えている懐かしい味をもう一度、というささやかな願いも散見。

「A&W のルートビアが飲みた〜い！」

「ルートビアのフロート、サロメチール味の」

「藤森のハムアラモードパンとカレーパンを食べたい」

「木村屋のパンをたらふく食べたい」

そして、おとなしく、冒険しなかった高校時代をふりかえって。

「もっともっと遊ぶ」

「ダラダラと過ごしてしまったことを反省し、思い切って不良になり、活動してみたい」

「学校、もっとさぼればよかった (まじめでした)」

これを読んでいる在校生のみなさん、先輩の声を参考に、悔いのない 3 年間を送ってください。

(文責：助川裕爾)



竹早高校生でよかったこと

還暦を迎えたクラスメートたちが、
竹早高校生だったことで
人生にとってよかったことをリサーチ。

人と人の出会いの場であったキャンパス

日本では、大学まで行くと16年の学生生活を送ることになります。人によってはその後、大学院に進み、最大21年間をキャンパスで過ごしたことになります。還暦を迎えた我々にとって、なんとこれまで歩んできた約1/3の年月になります。

そんな中で、さまざまな人たちとの出会いがあったはず。キャンパス生活にはさまざまな役割があります。生活するための基本的な知識や技能を得ること、そして将来の自分の進むべき道を見つけることなどです。その中で重要な役割の一つが、人と人の出会いだと思います。

人は一人では生きていけません。仕事でも生活でも、何かしら誰かと関係しながら生活します。大学では各専門に分かれ、その分野での友だちは数多くできますが、ある面みんなライバルです。楽しく話しているながらも、どこかで競争心があり、心置きなく話せる友はなかなかいません。

これは筆者が建築の設計をやっているからかもしれません。建築の設計は、今はほとんどがコンペティションで発注されます。コンペティションに勝たなければ、仕事がもらえない状況です。ゆえに友はみなライバルです。同級生は17人と少人数の大学でしたが、たまに他の建築家の受賞パーティで会うぐらいです。

それにくらべて、高校はこれからの自分の進むべき道を考えながら、一生懸命(?) 切磋琢磨して勉強していた時期です。

高校生活で、今でも覚えているのは、みんなで協力して一つのことにとりくんで、成果を上げたことです。バレー、バスケット、サッカーなどの体育祭。キャンパスが狭い中、よく練習しました。

そして文化祭。一致団結して映画を作ったことなど、大変だったけれどよい思い出であり、そこで知らず知らずに、緩やかな絆が生まれたのだと思います。映画製作には、さまざまな分野の知識と技術が必要です。筆者はそこで、共にものを創ることの方法と大変さを学ぶことができ、それ以後の活動にとっても役にたちました。高校生活は、さまざまな分野に関心がある人たちが一緒に生活していたということです。

住む分野が違う人たちは、本当によい仲間になれるのではないのでしょうか。たまに会ってバカを言いながら楽しめる関係が、人生には必要ではないのでしょうか。

年に一度の再会

「卒業後は先輩・同級生・後輩ともほぼ没交渉になり、よかったと実感できることは格別なかったのですが、ここ数年、同窓会・クラス会で皆さんと旧交を温める機会が増え、こんなによい仲間を持つことができたことが一番よかったことと、改めて感じています(少し言い過ぎ?)」

「素晴らしい人材が集まっている」

「当時は『友はみな我より偉く見ゆる』状態で居心地が悪かったけど、大人になってみるとそういう人たちが私の宝になっている。もっともやっぱりみんな『我より偉い』けど」
「学生時代は人との出会いが重要だということが分かった。今でもつき合える友だちができたことが人生の宝です」

A組では、数年前から毎年クラス会を行っています。

2011年の大震災の時も、なんとかみんなで集まり、現在に至っています。

日時から毎年決めるのは大変なので、日時は毎年6月の第1週の土曜日夕方からと決めています。1年前から決まっていれば、地方の人も予定があげやすいという利点もあり、毎年15名前後の参加者があります。負担となる幹事2名は出席者の中から決めます。

1年に一度再会しているのでみんなの変化はとても緩やかで、いつまでも高校の頃の気分で会うことができます。

緩やかにこれからも末長く続くよい関係が、A組にはできあがっています。

(文責：堀啓二)



16年11月の同期会の出席は16名。毎年のクラス会もほぼ同数のメンバーで楽しんでいます。



私たちの今日までそして明日から♪

世の中での存在感が相対的に薄い「端境期の世代」と言われたりする私たちですが、還暦を迎えた今、これまでの人生を振り返るとともに、今後について展望してみました。

わたしたちは今日まで生きてきました♪

私たちの世代は、社会的インパクトが大きい「団塊の世代」と「新人類世代」とに挟まれて、ともすれば影が薄くなりがちな「端境期の世代」と言われています。

社会に出てまもなく始まったバブル経済を経験するも、しょせん泡が長続きするはずはなく、その後長く続いた「日本の失われた時代」とともに生きてきました。

私たちのこれまでの歩みを、年代区分別に振り返り、それぞれの幸福度について評価してみました。

20代 ('76 ~ '85)、大人の社会に本格的デビューで 80 点

社会人としての離陸の時期、若さに満ち、怖いもの知らずで、無我夢中で仕事にとりくんだ時期でした。私生活では、旅行をはじめ引き続き青春を謳歌していました。

社会人としてようやく一人前の 30代は 86 点

日本はバブル経済の崩壊、世界は東西冷戦の終結という激動の時代を迎えました。この時期、転職等早くも人生の転機を迎えた仲間もいました。私生活では、子どもが大きなウェイトを占め、仕事と家庭における子育ての両立という、忙しいながらも幸せな人生を送っていました。この年代の幸福度は 20代にくらべて大きく向上しました。

社会の中核を担う人材となるべき 40代には 85 点

日本は後に「失われた 20 年」といわれる長い低迷期から脱することができずにいました。この時期、経済環境は悪くとも、私たちは責任ある仕事を任せられる立場に就く機会に恵まれ、大きな成果につながる仕事にやりがいを感じていた時代でした。家庭では、子育てにもようやくめどがつかはじめ、社会復帰を目指す挑戦も増えました。この時期の幸福度は 30代での評価とほぼ同じスコアでしたが、人生の質的な内容は大きく変容していました。

50代という直近の 10 年間は 81 点

リーマンショックや東日本大震災等、世界的に大きな危機が続きましたが、同時に私たちも、公私両面において、人生に一区切りをつけなければならない時期でもありました。新たな就労機会の準備、子どもの独立、親の介護等、必ずしも喜ばしくないことに直面する機会が増えました。幸福度評価も 30代・40代にくらべて低くなりました。これまでの人生で、この年代の幸福度を最も低く評価する回答者が一番多いという結果です。



4年ごとに開催される同期会には、担任田口先生にも毎回出席していただいています。

明日からはもっとよく生きていこうと思っっています♪

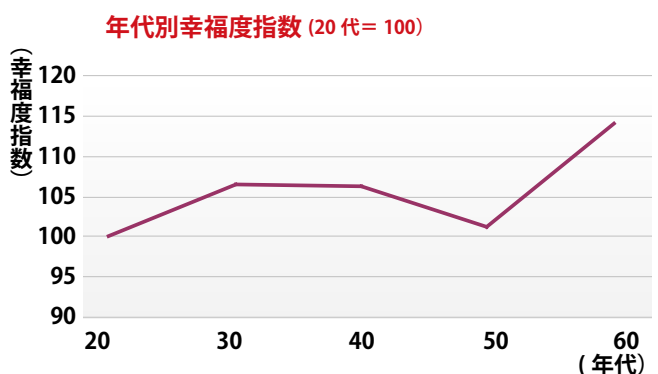
人生における一つの大きな転機となる還暦を迎え、私たちは人生の新たなフェーズ構築に向かって踏み出すこととなります。自らの老いとの闘いも意識しなくてはなりませんが、今後の人生に対して、もっと積極的な位置づけを求める気持ちも強いと言えます。

これまでは「自分が好きでやりたいこと」に十分とりくむ余裕がなかったので、これからは自分の人生を大事に生きていきたいという想いがあるとともに、今までとは違う形で社会に貢献することにチャレンジしたいという意識も強くあります。

今後の人生の幸福度に対する期待評価は 92 点

他のどの年代よりも高い値となっています。これまでの人生には紆余曲折があったにせよ、私たちは明日からはもっとよく生きていくのだろうと思っっています。

(文責：小松原聡)



幸福度指数＝個人の主観的な判断に基づく各年代の相対的な幸福感について 100 点満点で評価し、各年代の全回答者の平均値を指数化したものです。

C ROOM

竹早生でよかったと感じたこと

高校時代はたかだか3年間。しかし、振り返ってみると、高校時代の経験に基づいて敷かれたレールの上を歩んできた、その後の四十数年であったのかもしれない。

男子と女子が素で対等だった

「竹早生でよかったこと」の質問に多様な答えを期待したが、期待通りではなかった。その理由は、ほとんどの回答が「よい友人にめぐり会えたこと」だったから。友人関係こそが、われわれが通ってきたレールの通り道を定めた本質であることを、示唆しているようだ。ひとりの女性からの回答を紹介したい。

「竹早の日々を思い返して、よかったなと心から思うこと。それは、男子と女子が素で「対等」な集団だったこと。小石川に行きたかったけれど、2年生のころから竹早でよかった！と心から思えた。男とか女とか全然関係ない、という空気があった。男優位の小石川では感じられなかったと思う。竹早の男子は、私が人生で出会った男たちの中で一番「人として普通に優しく、私に女であることを全然要求してこない」「当たり前の」人たちだった（まあ、そういう要求もあったのかもしれないが、スルーできる空気があった）。中学までは生意気な女子はめいっぱい嫌われたし、大学の男は超絶可愛い女の子を求めてきたし、社会人になったら素敵な男性もたくさんいたけど、それに対して、私は素敵な女性でいる（演じる）必要があった。アホな男の女蔑視や妙な距離感と戦うのもうざかった（今も。笑）。竹早の3年間だけだった。私が女としてのプラスアルファを全然気にしなくてもよかったのは。あの日々が、その後の自分の土台になった。振り返って、そう確信できる。だから、心から感謝なのです」（H・T）

現役高校生読者に向けて

もうひとりの女性からの回答を紹介したい。「高校生は、大人のような精神性は持っていない、経済的には自立していない、中途半端な時代かもしれません。小さいときから目標を持ち、一途に取り組んでいる高校生もいると思いますが、そんな人ばかりではないと思います。私もそんな一人でした。振りかえって思うことは、もっとなんでもやったらよかった、ということです。まずは勉強です。試験前に勉強をしていると、次々興味がわいてきて知りたいことが増えてきたことがあるでしょう。スポーツも読書も、やればやるほどその世界を奥深く感じると思います。なんでも無駄なことはなく、それを通して新しい自分を発見することができ、それが趣味になれば、長い人生が楽しいものになっていくと思います。高校でやっていたことがその後の土台になると思うので、とりあえず気になったものには、ぜひ取り組んでみてください」（M・T）



担任だった藤原先生を亡くして寂しいですが、卒業前に転校した方々にもスナップにおさまっていただきました。

卒業後の交流：十日会

1975（S50）年卒の3年C組は、高校時代から協調性の高いクラスで、竹早祭や期末試験の打ち上げ、竹早寮旅行、ハイキング、野球観戦、誕生日会、クリスマス会などで、10～30名の大人数で頻りに集まって交流を深めていました。卒業後は毎月10日に池袋のパブ「ラ・ジターン」に集まる「十日会」は1987年まで続き、スキー旅行、テニス旅行、竹早寮旅行、文集「散史」編纂（4巻）なども高校時代の延長のように行われました。

その後、地方や海外への転勤、結婚、子育てなどでみんな忙しくなり、十日会は休会になりましたが、1990年代中頃までは電話と手紙、1990年代後半からはメーリングリスト、2001年からは電子掲示板を利用して連絡を取り合っており、毎年のクラス会とは別に、転勤の歓送迎会、暑気払い、山登り（11回）、芸術・ライブ・歌舞伎の鑑賞などの様々なイベントを行ってきました。記録のある最近8年間の掲示板の書き込み数は1900件を超えています。

2009年からは十日会が復活し、池袋に限らずいろいろな街に集まっています。2017年1月には初の海外十日会が台北で開催され、来年のバンコク十日会の開催も決まりました。

みんな高校時代と見かけは変わり、仕事や趣味、家族の状況なども様々ですが、心は若さを失わず、新しい発見と成長につながる十日会がいつまでも続いてほしいと思います。（T・A）

（文責：松永茂樹）



これからの 12 年間でぜひやりたいこと！

次の年男・年女になるまでに、クラスメートたちは何を大事にして生きていきたいと思っているのか、アンケートをネタに 3 男と D 子が言いたい放題。

3 男：「高校時代に戻ったら何をやりたいか？」の学年全体アンケートでは、トップの回答が「勉強」だったね。

D 子：そう！ なんてマジメなの？ と、ビックリした。でも、D は比較的「勉強」を挙げた人は少なかったみたい。

3 男：それで、これからどうしたいかを聞いた質問では、「**あちこちに行きたい、元気なうちに。楽しいシニアライフを送りたい**」という感じで、家族での海外旅行や、夫婦二人でのんびりと、旅行や山歩きをしたいという声が多かったな。

D 子：高校時代には山岳部なんて、地味で目立たない部活だったと思うけど、いまはトレッキングとか、山登りが大人気。ほとんど経験なしの私だって、北アルプスとかあこがれちゃうもの。

3 男：山岳部員は、流行の先どりをしていたわけだな。

D 子：シニア世代のやりたいことランキング一位は、どの調査でも、たいてい「旅行」だし。行先は国内だったら北海道や京都、海外はハワイ。でも、「**陸路で日本列島縦断、ユーラシア大陸横断**」なんて、タフな回答もあったわよ。

3 男：やっぱり体力のあるうちに見ておきたい、行っておきたいところが、日本にも世界にもいっぱい残っているということだね。だけど、最近はテロなどで、どこも危ない気がするし。ロンドンのテロの時に旅行していて、着のみ着のまま飛行機に乗せられたっていう経験も聞いたよ。まずは、安全が大事だね。それと、なんといっても気になるのは、「**健康**」

D 子：そうね。これからは健康であるだけで、ありがたいわ。

3 男：そういえば、「スレンダーでかっこいい爺さんになる！」という宣言(?) もあったよ。これまでやろうと思ってても仕事などに追われて体力づくりやダイエットができなかったからなあ…。残りの人生を考えると、ちょっとあせるよね？ 特に体型は、見てすぐにわかるから。

D 子：一念発起で「**メタボ卒業**」を目ざすのね？ 12 年後に会うのが楽しみだわ。

3 男：…。

D 子：だって、知ってる？ いま 12 才年上の有名人。久米宏にみのもんた、平泉成、杉良太郎…。当たり前だけど、これからはオジサン道まっしぐらだよな。

3 男：なんか、すごく恣意的に選んでないか？ それにひきかえ、女性には酉年早生まれの吉永小百合様がおわしま

すって(笑)。あと具体的な目標として挙げたのが、「**エージシュートの達成**」。

D 子：エージシュートって何？

3 男：ゴルフをやる人なら、だれでも願うこと。1 ラウンドを自分の年齢以下の打数で回るんだ。回答者はちょっと遠慮気味で、80 歳ごろに(スコアは 80 前後)ということだけど、それまでゴルフ、やってられるかなあ？

D 子：でも、そのために鍛えておくんでしょ？ クラスメートと一緒に回ったら、いいんじゃないの。

3 男：はいはい、そうします。伊豆の川奈の名門ゴルフ場あたりでクラス会を兼ねて、お祝いできるようにね。

D 子：健康や体力もだけど、まだまだ新しいことを知りたい、という前向きな人もいるわ。「**特に日本史や世界史を勉強したい**」って。現役時代の海外勤務を経て、

日本に落ち着いた今は、古事記や日本書紀に関わりのある神社、戦国時代のお城を巡ったりしているんですって。仲間を募って歴史ツアーや勉強会もしてるそうよ。

3 男：へ～え。すごいね。ずっと勉強を続けていたんだ。僕も歴史は好きだから、仲間に入れてもらおうかな。

D 子：「**スペイン語やフランス語、中国語を学び直して**」、海外の歴史旅も考えているそうだから、旅行に興味のある人が集まるといいかもね。

3 男：うちのクラスにも、勉強したい人がいたんだね。いくつになっても、チャレンジする気持ちはもっていたいし、実際に行動したいね。「**海外シニアボランティアをやりたい**」っていう人もいるよ。これまで未体験のことが人生に加わると、もっと豊かな老後(?) になるかな。

(文責：助川裕爾)



在学中から、常に女性優位(!?) のクラスでした。

E ROOM

今後の人生をどのように過ごしていきたい？

E組のクラスメートたちが還暦を迎え
何を考えているのか、また今後の人生設計を
どのように考えているのか聞いてみました。

ところで、還暦とは何？

暦（こよみ）が還（まわる）とは
どういうこと？

ちょっとしたウンチク話を一つ。

みなさん、十二支はよくご存じでしょう。去年は我々の年である申年、今年は酉年ですね。年賀状を出すときには、みなさん必ずそれをデザインに加えたりするのでなじみがありますね。

この十二支とは別に、十干というのがあります。これも立派な暦の一つで、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と10通りあります（言うまでもなく、ご存じですね）。古代中国の殷の時代から使われた暦で、空間・時間を表しているそうです。

従って、干支（えと）とは十二支と十干を組み合わせた暦のことで、12通りと10通りを順に並べていくと、60通りの組み合わせが存在します。

（これ、高校時代に習った順列組合せの応用ですね、試しに証明してみたいか？）

ちなみに今年2017年は丁酉（ひのととり）、昨年2016年は丙申（ひのえさる）でした。即ち60年で干支は一回りするのですね。これでお判りでしょう、還暦とは、自分が生まれた時の干支に、人生で初めて戻ることなのです。

いや、めでたいですね！昔なら、赤いちゃんちゃんこを着せてもらって、余生を楽しんでいる年ですが、今や現役でバリバリ働いている人がほとんどですね。さて、この60年の還暦を二回りすると（即ち120歳で）大還暦というようです。さすがに大還暦の同窓会はありえないでしょうか？

ちなみに、来年以降の干支は

2018年 戊戌（つちのえいぬ）

2019年 己亥（つちのとい）

2020年 庚子（かのえね）

2021年 辛丑（かのとうし）

2022年 壬寅（みずのえとら）…



同窓会には毎回出席いただける長谷部先生を囲んで16名。
この年になっても誰が誰だか、すぐにわかります。

閑話休題…

さて本題に戻って、E組クラスメートの声をお届けいたします。どうやら以下の3つのパターンに集約できそうです。

**(1) 仕事や家事から解放され、
趣味や旅行などを楽しむパターン**

「ゴルフや旅行、ボランティア、趣味の学習など行いたい」
「孫の顔を時々見ながら旅行、ゴルフ、山歩きと、のんびり過ごしたい」

「趣味のスポーツ、ダンス、音楽などやりたいことはたくさん。まとまった時間があれば旅行に行きたい。国内外とも知らないところがいっぱいある」

「家族、友人を大切にしながら趣味を楽しみたい」

(2) ビジネスに邁進する人もいます

「定年退職後は、何か新しいビジネスを立ち上げるようなところで働きたい」

(3) 標語風に

「やりたいことをやる」

「のん気、こん気、元気、でいたい」

(4) 最後に、こんなのもありました

「楽に死ねたらよい」

…大丈夫でしょうか？

（文責：遠藤和彦）



人生の楽しみ—思い出とこれから

卒業してから 42 年。でもクラス会で会うと、昔とちっとも変わっていないクラスメートたち。還暦後の楽しみも、基本的には高校時代と変わらない「日常の充実」にありました。

楽しい談笑が思い出の中心

放課後の教室で、部活の帰り道での友達とのおしゃべり、いろんな話をした高校生活のオフタイム。

特にトランプ派の女子たちが「ナポレオン」に「大貧民」で、箸がころんでもおかしいのか、キャピキャピと華やぐ。そんなさわやかな風景が、鮮やかに蘇る。そういえば一部には「相撲女子」もいましたっけ。

男子は、友達との小旅行や修学旅行の夜、「○○ちゃんが好きだ」「いやおれは○○さん派」という告白や悩み、家族の話、すけべな話題を延々と語り続けた。

「○○さんをデートに誘いたかったあ」と思いつつ、なかなか誘うことができない「もじもじくん」男子だった微笑ましい姿が思い浮かぶ。当世には見られない希少な存在だろうか。ホロリとしたり、爆笑したりと、盛り上がった思い出満載です。

勉強などの悩みも、仲間との話の中で癒えていく、そんなクラスであったと、F 組を振り返ります。

日々の喜び、仲間との楽しみを大事に続けてゆく還暦後

我々の年代は、80年から90年代にかけて、社会人の若手・中堅として、好景気の時代からバブル期の絶頂期を過ごしました。

よくもあんなにお金使って、華美に装い、夜の銀座に六本木・・・と繰り出していたものです。

そして不況を迎え、儲からなくなる中で、成果主義や経費節減を強いられ、結構生活も質素節約型になっていきました。つまり世の中の酸いも甘いも味わった世代です。

しかし、その中で、我々は、日ごろの精神的な充実、友人・家族と暮らす健気な日常の喜びが、人生でいかに大事なもののかの認識を深め、地に着いたものとしてきたのではないのでしょうか。

我々の年代は、基本的に高校時代と変わらず「**日々の充実、家族・仲間、友情、癒し**」を大事にしています。

これからの還暦後も、きっと続けて家族・仲間の日ごろの暮らしに微笑みを提供する、温かい存在であり続けるでしょう。

(文責：吉田賢治)

還暦を迎えたこれからの楽しみ

小さくとも、目標を持って日々努力を続ける充実感。F組女子はさすが努力家

「トライアスロンや水泳の大会で年代別の一位になる。毎日皇居ジョギング続けます」

「まだまだバレー頑張るぞ。孫たちともいっぱい遊ぶぞ！」

「超難関漢字パズル全問正解目指す」

「外国人とも交流することが楽しみ」

大それた目標を描くというよりは、現実的な目標に向かってコツコツ努力を積み重ねる、そのプロセスを楽しんでいる姿がイメージされます。

趣味を楽しむ毎日笑顔の暮らし。F組男子は優しい現実派

「趣味を楽しみます」

「音楽を続ける」

「毎日笑顔になれることが一つある暮らし。むずかしいかな？」

「孫と旅行することですかね」

肩から力の抜けたセリフが目につきますね。

孫を連れて、日々をゆったりと過ごす。ニコニコおじいちゃんのイメージです。



毎年クラス会を実施しています。毎回出席は 14 ~ 15 名、今回はその中の 11 名が出席しました。

第10回篁寿会開催

高女時代に入学された先輩の皆さまの同窓会として篁会が幹事としてスタートした篁寿会ですが、記念すべき10回目を迎える事ができました。継続は力なりで、毎年このように会が開催されてきた事が何よりも喜ばしいことだと思います。

平成28年10月22日(土)正午より、皆さまおなじみの学士会館において会は開催されました。最年長(最上級生)の松本紀子前篁会会長から最年少の篁52回生までの46名が参加され、一年ぶりの再会を楽しめました。

今回の特別企画の一つは、星野昌子元篁会会長とアメリカに長期在住なさっていた大町真須子さんとのアメリカ大統領選にまつわるお話でした。トランプ候補とクリントン候補の選挙対決を2週間後に控えている事もあり、興味ひかれる内容でした。選挙権を持っていると日本からも選挙にeメールを使って参加できるというくだりでは日本のe選挙がいつになるのかと思いを馳せてしまいました。

もう一つの企画はバイオリンデュオによるミニコンサートです。高校4回生(篁52回生)の中島明子さんのお嬢さまでプロのバイオリニストの中島ゆみ子さんとお孫さん(ゆみ子さんのお嬢さま)で同じくプロの望月ゆり子さんのお二方の息もぴったりに奏でられるバイオリンの素晴らしい音色にうっとりとしてしまいました。

会の締めは「第二高女校歌」斉唱ですが、今回はこの素晴らしいバイオリニストの参加で、校歌と「今日の日さようなら」をバイオリン伴奏で歌うといういつもとはひと味違う演出を楽しむことができました。

私は今回3回目の参加ですが、毎回パワーいっぱいの大先輩がたとお話をすることでおいに刺激をうけ、エネルギーを頂いております。いろいろと不安な事象が世界中から報じられている今日この頃ですが、戦争を乗り越え、人生をたくましく切り開いてこられた「おおらかな」先輩たちとの交流は、私達に大なる気合いを入れてくれました。

また次回もお手伝いという口実で会に参加して、パワフルな先輩方とお話ができる事を楽しみにしております。

篁会副会長 薩田須美子(高校24回生・篁72回生)



●
次回の篁寿会開催は
2017年9月30日(土) 学士会館に於いて、正午開宴です。
多くの方のご出席をお待ちしております。

●
お問い合わせは 篁寿会事務局 佐藤美紗子(高校16回生・篁64回生)まで
電話：090-3916-5914
●

図書館に寄贈いただきました

2016年11月29日、信濃町にある城戸崎愛さまのご自宅を訪問し、ご著書をたくさん寄贈していただきました。

城戸崎愛：元箏会会長・高女43回生・NHKきょうの料理ラブおばさん



左より、薩田須美子副会長・城戸崎愛さま・佐藤美紗子監事・三野直子理事

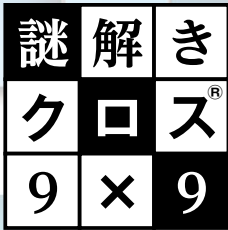
東京校歌祭に参加しませんか

今年25回を迎える東京校歌祭が10月1日荒川公会堂（サンパール荒川）で開催されます。戸山、小石川、文京、西高校など名門の旧制中学、高等女学校だった19校が参加予定です。私たちも、『校歌を歌い継ぐ会』で参加します。発起人は 松本紀子さん、星野昌子さん。府立第二高等女学校校歌、竹早高校校歌を合唱する予定です。皆さん、懐かしい校歌と一緒に歌いませんか。また、参加に先立って、高女卒業の先輩が当時の校歌の歌唱指導も計画しています。「府立第二高等女学校 校歌 練習会」を8、9月に計画しています。「若い皆さんと一緒に歌えるのが楽しみです」松本紀子前箏会長もお待ちしています。参加を申し込まれた方に日時、会場をご連絡します。

「第25回 東京校歌祭」 10月1日 開催
<http://www.shakujii-club.gr.jp/>
会場 荒川公会堂（サンパール荒川） 時間は調整中です。
116-0002 荒川区荒川1-1-1 03-3806-6531

参加申込 メール takamurakai@gmail.com 「校歌祭」と書いてください。
はがき 101-0021 千代田区外神田5-2-3 JR外神田ビル3F
プロックス内 校歌を歌い継ぐ会 古山浩之助（箏64回生）宛
電話 090-3234-1603（古山）
留守電の時 お名前、連絡先の電話番号のメッセージをお願いします。

皆様のご参加、お待ちしております。

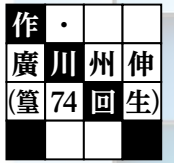


新感覚クロスワードパズル

下の文章を読んで、右ページのクロスワードパズルを解いてみましょう。

竹早探偵物語

青字の「言葉の破片」を使って、謎解きクロスワードの枠を埋めていくと、5文字のテーマが浮かび上がります。



問題編

還暦を迎えてから、昔のことを思い出すようになった。

たとえば伊豆の小さな島で、魚釣りをしたこと。早霜が降りるような、寒い日だった。岩場に立ったまま、母がもたせてくれたいなりずしを食べた。

あれは45年前、竹早高校に通っていた時期のことだが、今でも映画の1シーンのように鮮明に覚えている。

竹早は、望んで入った学校ではなかった。中学で成績トップの私は、小石川に進学すると思い込んでいた。そこは定められた区内だけではなく区外からも越境してくる、東大に行く生徒も多い進学校だったからだ。

合格発表の朝、夢を見た。友の胸倉をつかみ、言葉のヤリで攻撃した。

「何でお前が小石川なんだ。何でぼくじゃないのか」

その場の空気が凍り付いた。担任の女性教師がなぐさめてくれた。

「竹早だって伝統のあるステキな学校よ……」

それは、正夢となる。それまで上り電車しか乗らなかった自分が、これから下り電車に乗る……そんな感覚が襲ってきた。

小石川に比べ、竹早は施設面でも見劣りがした。その時代、竹早には体育館もなく、屋内スポーツの授業は東大の施設を借りて行われた。私たちはよく、本郷にある体育館までランニングをしたものである。

もっとも今では竹早高校でよかったと、心の底から感謝している。とくに私がいた時代の竹早には、他校にはない自由奔放な文化があった。

その空気に刺激された私は、柔道部にいながら文系のクラブ活動を探した。

生物部に行くと、後に詩人となる少女がいた。気になったものの、結局私は、幽霊部員で終わった。その代わり、美術の小野政吉先生を慕って美術部に入った。だがデッサンが苦手で、美術室は小野先生と雑談する場と変わっていく。

文芸部には興味があったが、そこで出していた同人誌は気に入らなかった。「群像・文藝界・文藝」などを買って読んでいた私にはもの足りなかった。

多くの授業は面白かったが、選択制が多く、午後の時間がポッカリ空くこともある。そんなときはバスに乗り、荒川の土手で寝そべて好きな小説を読み漁った。

夏休みには、地元の友人とつるんで夜遊びをした。そこで会うのは、いわゆる落ちこぼれで、高校の話は禁句だっ

た。竹早の名を出すと女子は褒められるが、男子は「アタマいいじゃん」と言われ「それって女子校だろ」とばかにされるに決まっている。そして私は、お決まりの酒・煙草・異性交遊……暗い穴に落ちて抜け出せなくなった。それでインドのヨガに救いを求め、体質を改善しようとした。身体から邪悪なものを抜きたかった。

昭和46年9月24日。16歳になった私は、鎌倉にいた。寺を散策するうちに髪を切りたくなり、床屋に入って頭を五厘刈に丸めた。そして鶴岡八幡宮を参拝し、神奈川県立近代美術館に向かう。その日に『荻須高德展』がスタートしていたのである。

荻須は、フランスで「外国人なのに、パリジャンよりパリの風景をよくとらえた」と絶賛された画家である。彼の描く絵の向こうには、工場の機械化が進む前のパリがあった。その絵はアル中のユトリロ、結核にむしばまれた佐伯祐三の描くパリとも異なっていた。

荻須の絵には、品があった。古い建物が解体されても、また古いレンガを使った建物を造るというような手間をかけ、伝統を守ってきたパリを愛する心があふれていた。その街は、人生の示唆にも富んでいて、なぜか古くて懐かしい家具のにおいがした。

会場に入ってから数時間後、小坊主になった私は、ある風景の前で動けなくなった。その絵は圧倒的な力を持ち、未熟な心にある板の間に土足で上がり込んできた。

ピカソの言葉に、こうある。

「5分みた感動と、1時間みた感動が劇的に違うなら、それは本物だ」

十代でパリにわたってルーブル美術館に立ち寄った岡本太郎は、ピカソの絵の前で立ち尽くした。まだ画家として発芽していなかった太郎は、涙が止まらなかった。ピカソの筆のリズムは恐ろしいほど速い。こんなに凄い絵描きがいたのかと、彼は震えた。

その数年後、油彩を学んだ彼は、もう一度ピカソの前に立った。だが1時間後には号泣していた。そして数年後、岡本太郎はピカソの絵の前において、もう3時間もにらみつけていた。深く感動はしたものの、そこに涙はなかった。過去2回で生まれた胸の痞えは、すっかりとれていた。

「自分もまた、誰もみたことがない芸術の道を歩こう」

とつぶやくと、太郎の心の底から、激しい闘志があふれてきた。

その荻須高德展には、ちょっとしたハプニングがあった。絵の前で立ち尽くしていた私に、背広姿の男が声をかけた。「もう、よろしいでしょうか」

彼の後ろには、大きな花束を抱えた着物姿の老人がいた。その斜め後方に、夫人なのだろうか、やはり地味な着物を着た老婦人がたたずんでいる。その向こうには、いつの間にか集まってきたのか、大勢の報道陣がグルリと囲んでいた。私は、思った。

「この美術館には90点の油彩がある。ポスターになった有名な絵ではなく、なぜこの絵の前で写真が撮りたいのか。それは**ない物ねだり**というものだ……」

一步も引かない私に、小さな老人は目をひんむいて野良犬を追い払うように「シッ！」という仕草をした。背広の男が私の右腕をとる。

「閉館時間を過ぎているから、表に出なさい！」

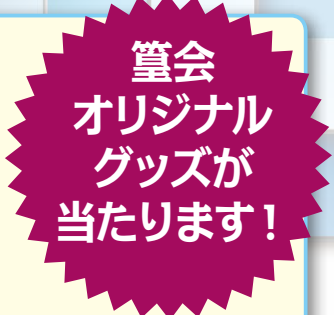
そのとき気づいた。花束を持っていた老人は『片腕』という短編や『雪国』を書き、ノーベル文学賞を受賞した川端康成その人であった。彼が「シッ！」といった醜い口でガス栓をくわえ、黄泉に旅立ったのは翌年4月16日のこととなる。

竹早高校でみつけた「自由に生きる」という人生の**目的**は、その後、私の心の在り方を変えた。私は今、コンサルタントと作家という**二足の草鞋**を履いている。竹早時代に自由な風に吹かれなければ、別の人生を送ったことだけは間違いない。

◆謎解きクロス®の解き方◆

- ◇まず読みがな7文字の言葉を探します。次に5文字、というように埋めていきます。
- ◇言葉の破片が【タテ】か【ヨコ】かを知りたいければ、逆さのヒントをご覧ください。
- ◇ヒントは、15ページ「謎解きエッセイ」にも記してあります。お楽しみください。

1		2	3		4	5		6
A								B
		7		8				
9	10		11				12	
13		14				15		
	16			E				
17						18		19
20			21		22		23	
		24				25		
26					27			
D								C



- 《篁会》《研目》
 《雅Y回》《唱》《ㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥ》
 《發》《ㄥㄥㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥㄥㄥ》
 《干》《ㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥㄥㄥ》《ㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥ》
 ㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥ
- 【篁】
 【干】【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】
 【ㄥㄥ】【ㄥㄥㄥㄥㄥ】【ㄥㄥㄥㄥㄥ】【ㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥ】
 【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】【ㄥㄥ】
 ㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥㄥ

解答

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

- 解答は篁会ウェブサイトを通じて、または同封の「篁会総会出欠ハガキ」にて6月末日までにお送り下さい。
- 正解は篁会ウェブサイトに7月上旬に掲載します。
- 正解者には抽選で篁会オリジナルグッズを差し上げます（Tシャツ・USBメモリ各5点）。

謎解きクロスを解いて浮かんできた「ABCDE」の言葉をテーマに「謎解きエッセイ」を寄せてもらいました。15ページをご覧ください。

変化の3年間 松本悠希乃 (筈115回生)

私がいた3年間は、いい意味でも悪い意味でも変わった3年間でした。入学当初は本当に「自由な」「自主自律」の精神に溢れた場所だったと思います。生徒は制服も髪色もみんなバラバラ。だけど、竹早生という自覚はあって、「竹早生の『勉強してない』は『勉強してる』」とはよくいったものです。ね、みんな?(笑)。行事で髪型が変わったって、翌日の教室では皆元通り。まさに「メリハリ」。これぞ竹早生のいいところだと思います。

先生たちもユニークで、国語の先生が白衣を着ていたり、デカイ鉛筆をもっていたり、「takadanobaba」でアクセントを教えてくれたり…笑。でも、どの先生も生徒想いの素敵な先生でした。

こんな素敵な環境で、勉強も行事も部活も全部がんばって、素敵な仲間ができて…竹早に入って、私は180度変わりました。卒業する頃には竹早の「自由な校風」はだいぶ違うものになってしまったけれど、1年生の時「本当の竹早の姿」を知れたことも誇りに思っています(笑)。

今でも、竹早生とは、会うたびに変わらない安心感と、居心地のよさはお墨付きで、思い出話が生まれれば、キリがありません(笑)。



■ヒント③ 【土手】→タテ24 〈示唆〉→ヨコ9 【家具】→タテ5 〈痞え〉→ヨコ13 【鳥】→タテ25 〈板〉→ヨコ12

後から気付いた縁の端 丸山常生 (筈74回生)

しばしば美術室を抜け出し、屋上で日向ぼっこをしていた。気ままにのんびり取り組んだ初めての石膏デッサンに、小野政吉先生が記された寸評は意外にも、「微妙な光の表現に驚く」。この時はまだ、まさか芸術の道を選ぶことになるとは予想だにできなかった。サッカー部で活動し、天文学に興味があった。

その後いろいろ悩んだ末、進路を定めた矢先に重度の肺結核で長期入院し、一年留年。傷心癒えぬまま、放課後の薄暗い美術室であらためてデッサンを始め、先生の穏和な眼差しに潜む、自己に厳しい骨太な造形精神と接するようになった。

人生で輝くかどうかなど未だ私にはあずかり知らぬこと。いつ誰がどうやって判断するのだろうか。しかし茫洋と広がる生きられる時空間に、たまさか光が射し込む(そこには陰影と奥行きも生じる)ことがあるのは感知できる。そして造形の深奥で作用する質量、振動、重力、さらに恩寵の驚きが立ち現れることも。

高校時代4年間の様々な断片的体験が、私にとって重々無尽の縁を成していたと気づいたのはずっと後年。くすんだ木炭紙の隅の小さな10文字の筆跡に、思いがけず再会した時だった。



■ヒント④ 【寺】→タテ2 〈品〉→ヨコ23 【インド】→タテ3 〈ヤリ〉→ヨコ20 【禁句】→タテ4 〈発芽〉→ヨコ17

音楽との出会い 青木輝雅 (筈74回生)

高校と言えば思い出すのは文化祭、授業合間に弾いていた音楽室奥のくたびれたグランドピアノ。音楽好きには、文化祭演奏は恰好な催し物、毎日あればと願った程。

高校に入った71年頃は、大衆文化が猛威を振るった60年代を引き継いで正に百花繚乱。音楽も然り、豪雨のように目新しい物が降っては湧いた。

現代の音楽文化は、もはや時代を創るような影響力は持ち合わせず、性格やエネルギー量は変質した。あの時代の得体が知れぬ底無しエネルギー感を経験した事はかけがえない。勿論、僕に懐古趣味は無く、現代の音楽も大好きだけれど。

お陰様でか不幸にてか、僕は当時の音楽溶媒にやられて、その後回復が見られない。音楽は残照のように僕を覆い、それ以上興味を引く対象に巡り会えなかった。ドラマー目指す次男に「親父リズム悪いな。」と言われつつ、ギター手に取る日曜楽師である。



「竹早祭 お休み処」 ～11回目は カフェ風に変身～

2006年に箆会と「学校との連携強化」を目的として始まった、竹早祭への模擬店「お休み処」の出店も11回目を迎えることになりました。校舎中央階

段を2階に上がった左角という定位置の無料「お休み処」はすっかりお馴染みとなりましたが、今回は、ちょっと趣向を変えながら、100均グッズを駆使して、今風カフェスタイルを演出してみました。各テーブルには、箆会にちなんだクイズつきのPRプレスマットを設置。また、76回生D組の現代書家森岡静江さんによる、ウェルカム

メッセージやお品書きのおかげで柔らかなほっこりムードが生まれ、ホワイトマグネットシートをきらきらトライアングルに変身させて、雰囲気のあるディスプレイを作りました。例年の創立100周年記念ビデオの上映のほか、伝統校を語る力作の歴史ボードも壁面に登場。9月10日と11日はお天気にも恵まれ、いつもながらお昼過ぎまでほぼ満席となり、箆会のにわかウェイトレス、ウェイターはフル回転。一番人気の「なっちゃん」のオレンジジュースを躊躇なく注文する在校生には、忘れていた青春の横顔を

みました。小さなお子さんとともに一家総出の見学組、なつかしさに浸る高女OGと思しき方、受験を控えた親子連れ、卒業生同士の待ち合わせグループ、そして在校生のなかにはリピーターも。いずれもほっと一息できるテーブルでいろいろな話の花が咲き、用意されたお菓子も底をついて買い足す事態となりました。

2日目の午後にはちょっとしたサプライズで、二胡演奏家・

出倉均さん(76回生D組)の飛び入りライブ演奏が、心地よいまったり感をさらに増幅。D組はこれに合わせてミニクラス会を開いたのですが、噂を聞きつけた他クラスからの「乱入」で大いに盛り上がり、これを仕掛けた幹事の進護さんは、「卒業40年記念合同クラス会」(12月3日、Bee池袋東口店、82名参加)の大成功へと導きました。今後もお休み処を同窓会ネットワークの連結点として活用いただければと思います。来場者数はのべ1,250人、ワンコイン寄付の総額は26,925円でした。ご理解ご協力で感謝申し上げます。

箆76回生・小野(山口)



出倉均さんによる二胡の演奏



箆76回生グループ・手前右が進護さん、中央がお品書きを書いた森岡静江さん

2017年竹早祭は、9月9日(土)～10日(日)の予定です。

懐かしの先生を訪ねて

～岩品先生を囲んで～

平成29年1月29日(日) 都内某所

出席者

岩品千里先生(平成18年4月～平成25年3月在籍、担当教科世界史、
現在は都立豊多摩高校で教鞭を執られています)

下村奈々美さん(平成23年3月卒業、篁111回生)

山田江里奈さん(平成23年3月卒業、篁111回生)



折江: 今日「懐かしの先生を訪ねて」ということで、岩品先生と、下田さん、山田さんにご協力いただき、皆さんの心に残っている数々のエピソードをお聞かせ頂きたいと思います。

下村: 岩品先生の授業はすごく楽しかったです。

山田: 先生は私たちを楽しませるように授業をしていましたよね。授業中寝ませんでしたし。(笑)

岩品: どんなところが楽しかったのかな。

下村: 先生、演技していませんでしたか。1人2役のような真似して。

岩品: そんなこともあったかな。それよりも、ビデオプロジェクターを使って「十字軍」とか「ジャンヌ・ダルク」の映画を見せたことを覚えていないかな。

下村・山田: はい、覚えています。

山田: 歴史を物語として映像で見るので、歴史の社会的な背景なんか分かりやすかったように思います。

岩品: 私は皆さんが歴史に興味を待ってくれることが一番で、歴史を難しく話すのではなく、簡単に分かりやすく伝えることを心掛けていました。

折江: やはり、どのようなことでも伝えるという気持ちが大切なんですね。ところで、先生が竹早に在籍していらした7年間で、生徒の雰囲気に変化はありましたか。

岩品: そんなことはありませんでしたが、それよりも、私は竹早みたいに自由な雰囲気を持っている学校は初めてでした。

下村: そういえば、私たちものびのびしていましたよね。自主・自立と同時に自己責任みたいなものを感じていたように思います。

岩品: 竹早は生徒を一人の人間として扱っている学校だと思います。

折江: 「生徒権宣言」の精神が生きているのでしょうか。

岩品: 今の生徒たちがそれを読んでいるかは分かりませんが、その精神は繋がっているのではないのでしょうか。

山田: 私たちは校則を意識したことはありませんでしたね。

岩品: 校則といえば、一時期はどここの学校も私服が許されていたのですが、最近は制服が復活してきています。竹早は数少ない服装が自由な学校となっています。

折江: 周りは随分変わってきているんですね。他にも岩品先生が感じられている竹早の特徴はございますか。

岩品: 幾つかあるのですが、私が竹早に赴任してきて一番驚かされたのが、校内放送が少なく静かな学校だということです。どここの学校も休み時間は生徒の呼び出しで、引切り無しに校内放送が入るんです。

下村: そういえば、休み時間に校内放送はあまり聞かなかったですね。

岩品: ある時、竹早と同じような受験校から赴任されてきた先生にその話をしたら、その先生も「本当に、こんな学校があるんですね。」と驚かされていました。

山田: 他の学校ではそんなに呼び出しがあるんですか。

岩品: 君たちは意識していなかったかもしれないけど、集合時間にちゃんと集まるのが竹早生なんだよ。

下村: 私たち、竹早しか経験していないので、そんなことは気が付きませんでした。

岩品: その他にもクラブ活動や文化祭などでも、その自主性に驚かされることがありました。

折江: 具体的にはどのようなことですか。

岩品: 私は軟式テニス部の顧問をしていたのですが、竹早のクラブ活動の特徴は「自分たちで自由に活動して、自分たちの思うものを創り出したい」ということだと思います。一面的な成果を出すことよりも自分たちの活動に何かを見出すというものなので、教員は見守ってあげる方が良いのかもしれません。それでも、結構自分たちでできる子たちだから、そこそこの成果もあげるんですよ。

折江: 社会の物差しは色々ありますので、それは良いことですね。

岩品: また、竹早の生徒は文化祭や体育祭でも積極的な活動をしていましたね。特に文化祭は竹の子祭と竹早

祭を併せて4日間になっていまして、竹の子祭では3年生がクラス毎に演劇を全校生徒の前で発表していました。

山田： 私たちも竹の子祭の演劇は一生懸命やっていたよ。

岩品： 山田さんは脚本と主役を担当して頑張っていたよね。

折江： それは、寸劇みたいなものだったのですか。

山田： いいえ、ちゃんと自分たちで台本を書いて、脚本もして、50分ぐらいの劇にします。

下村： 放課後に残って演劇の練習をして大変だったけど、自分たちでひとつのものを造り上げたという達成感がありました。

岩品： 私は練習も見に行かなかったし、当日どんな芝居をするのかなと、そわそわした気持ちで見えていたんです。50分の中でストーリーが繋がるのか心配だったのですが、見事にまとめ上げられていて感動しました。

下村： 舞台が終わった時、みんなで泣いてましたよね。

岩品： 私もクラスみんなと舞台袖で山田さんと下村さんが出演していた最後のシーンを見ていましたが、思わず涙が出てきました。泣いていたのは君たちだけではなかったんだよ。

山田・下村： そうだったんですか。あの時は自分たちのことしか見えていなかったです。

岩品： みんなも3年生の受験時期に大変だったと思うけど、3年生だからこそあのような素晴らしい思い出が作れたのだと思います。竹の子祭の演劇は伝統校としての素晴らしいイベントではないでしょうか。

山田： 私たちは、竹の子祭を機にして気持ちを入れ替えていたかもしれません。集中することが大切なんですよ。

下村： 高校生活が受験目標だけでは面白くないですよ。

岩品： 竹早には受験合格発表会がありますが、そこに出席した君たちの後輩の全員が同じことを言っていました。「竹の子祭の演劇はやっていてよかった。あれを真剣に取り組んでプラスのことはあっても、マイナスになることは絶対にない。」と。だから、現役の竹早生の皆さんも一生懸命にやって下さいとお伝え致します。

折江： 竹早生に力強いエールをありがとうございます。ところで、最近、都立高校の受験倍率を目にしたのですが、竹早は倍率が高いほうなんですね。

岩品： そうですね。結構、遠くからの受験生もいましたね。そういえば下村さんも足立区じゃなかったですか。

下村： 私は学校見学で竹早の自由な雰囲気が気に入って、第一志望に決めていました。

岩品： 高校選択の基準のひとつは学力であり受験校に人気が集まりますが、竹早には「自由がある」ということも大きな魅力ではないんですかね。

折江： 下村さんも山田さんも、入学前から竹早には「自由がある」ということを知っていたんですか。

下村・山田： はい、知っていました。

岩品： 君たちの後輩に「〇〇高校は竹早とそんなに雰囲気が違うの」と聞いたら、少しオーバーだったけど「あっちは軍隊です」という回答が返ってきました。

一同：爆笑

岩品： 結構、竹早でなければという受験生が増えているのかもしれないね。

折江： 今日は皆さんに色々と在校時の思い出をお伺いしましたが、皆さんが在校生に伝えたいことがありましたらお聞かせください。

下村： 今日は楽しかったことを中心にお話しさせていただきましたが、辛いこともありました。でも、今になって改めて考えると、楽しいことがあったから頑張ってきたのかなと思います。

山田： もし過去に戻れるならば、もう一度竹早時代に帰ってみたいですね。今ならば、竹早の自由な環境の中で、あれもこれもやってみたかったことが浮かんできます。在校生の皆さんには、竹早時代の時間は大変貴重なので、色々なことにチャレンジして頂きたいと思います。

岩品： 私も幾つかの学校を見てきていますが、生徒の自主性を竹早のように大きく認めている学校はないと思います。生徒の皆さんは自主・自立の環境からしっかりと責任も感じ取っており、このような校風は素晴らしい伝統だと思っています。これからもこの伝統を引き継いで頂き、竹早生が社会のあらゆる場面でご活躍されることを願っております。それから、最後に一言ですが、私は竹早の校歌が大好きでした。

一同：爆笑

折江： 本日は岩品先生をはじめ、下村さん、山田さんにもご協力いただき、大変貴重なお話を楽しくお伺いできました。皆さんにとって竹早時代の思い出が大切な〇〇〇〇(*)なのかなと改めて感じた次第です。本日は本当にありがとうございました。

*〇〇〇〇〇の5文字は13ページ「謎解きクロス」のテーマです。



インタビュアー：折江(丁) 宏道
(昭和49年3月卒業、筈74回生)



われら 115 回生

秋葉美穂：明治大学理工学部数学科 ● 大滝恒輝：筑波大学理工学群物理学類
五月女裕太郎：中央大学理工学部都市環境学科 ● 松本悠希乃：明治学院大学心理学部教育発達学科
(高校67回生・篁115回生)

はじめに

私たちは、2012年度から14年度まで在籍していた高校67回生であり、現在は篁115回生です。昨年の篁会総会ではお手伝いをさせていただきました。私たちがいた頃から、竹早高校は大きく変化した気がします。そのことを振り返りな

がら、皆さんに私たちが過ごした3年間を知ってもらいたいという思いで書かせていただきました。また、各クラスで印象に残っているエピソードを募集しましたので、この場で発表いたします。

クラスごとのエピソード

A組は学年主任でもある社会科の中田先生が担任でした。生徒思いの先生であり、受験期には文理問わず、多くの生徒が中田先生と相談していたようです。A組はクラス全体で仲が良く、行事や日常の学校生活をとても楽しく過ごしました。右の写真はハロウィンの時の中田先生です。昼休み、教卓の上に置いてあったかぼちゃの被り物を少し恥ずかしがりながら被ってくれたのを今でも覚えています。たしかその話を聞いた社会科の女屋先生も被ってくれたような…。竹早には愉快で生徒思いの先生がたくさんいましたね。

B組の担任であった体育科の安岡先生はクラスの子からとても人気で、様々な相談も受けていたようです。また、B組の英語の単語小テストの平均点が高く、英語科の先生からは「B組はとても良い雰囲気である」とよく褒められていました。

D組の鈴木春風先生の古典と現代文の授業はとてもわかりやすかったです。どちらも苦手教科だったので、そんな僕でも理解することができました。授業中にはすごく大きな鉛筆を指し棒のように使用していたのが印象に残っています。また、高校2年の創立記念日に友達とディズニーシーに遊びに行った時に、春風先生一家と偶然会ったのが思い出に残っています。お子さんがとても可愛らしかったのを今でも覚えています。

E組は、数学の市原聖高先生が担任でした。市原先生とは10歳しか離れていなく、生徒からは「いっちー」というあだ名で呼ばれていました。先生についてのエピソードはたくさんあるのですが、中でも修学旅行の夜に、「先生は消灯したらできないから優先しろ!」と言って、消灯時間まで生徒と一緒にゲームをしていた姿が印象に残っています(笑)その姿は大変熱かったです。そのような面白い一面もありますが、授業は大変分かりやすかったです。私が数学を好きになったのは市原先生のおかげと言っても過言ではありません。また、E組のことだけではなく学年全体のことを考えてくださる良い先生でした。他のクラスの生徒とも仲良く話している姿が印象的でした。

C組の担任の英語科の牧先生は、熱心な先生

であり、教え方だけでなく宿題の添削も丁寧にしてくれました。生徒からの信頼はとても厚かったです。英語学習の難所を山で表現したり、座席表の「斜めの向き」に解答順を指定したり、「高田馬場」で発音の勉強をしたりととても楽しい授業でした。また、毎日CDラジカセや辞書の一つのかごへ入れて持ち歩いているため、実はマッチョなのではという噂が立ったのも懐かしい思い出です。



(文責：大滝恒輝)

また、修学旅行ではもう一つ面白いことが起きました。3日目の朝は岡山県から大阪府まで移動でした。そのとき、Kさんという女子が、ホテルのスリッパを履いたままバスに乗り、ホテルの最寄り駅まで移動していました(笑)。自分の靴はホテルの自室に置き忘れてしまったそうです。一旦先生から靴を借りた後、靴を現地で購入し、置いて行った靴は自宅まで送ってもらったそうです。E組で起こった出来事の中では一二を争う面白エピソードだと思います。E組では「スリッパ事件」と呼ばれています。

私はこの4人の中で唯一のE組だったのですが、こんなに面白いことが起きるクラスに所属できたことを嬉しく思っています。

F組の担任の先生であった生物担当の岡幸子先生は、授業にて人間の頭蓋骨の模型を持ちながら、笑顔で話していたそうです。その姿が生徒の印象に今でも残っているそうです。

(文責：五月女裕太郎)

修学旅行

高校2年生の時に行く修学旅行先は毎年沖縄。私たちも当然沖縄に…思っていました。しかし残念なことに、当時は飛行機の値段が高騰していました。そこで通常三泊四日のところ一日削って沖縄に行くか、広島、岡山、京都などの中国、近畿地方を周遊するか、多数決をとり、後者の三泊四日の旅になりました。

今はどうかはわかりませんが、竹早の校外学習は基本が自由行動。今回も岡山解散京都集合といった日もあり、なんだかんた自分たちで練ったプランを基に楽しい四日間を過ごしました。なにが印象に残っているかといえば、この学年、合格発表から入学式、遠足など行事は全て悪天候。せっかくの修学旅行も台風と追いかけてこという予想以上に面白い展開で、最終的には追いつかれ台風の京都という珍しい体験をすることができました(笑)。

あとは、一府二県(人によってはそれ以上)を周遊した関係で一日ごとに泊まる宿も変わった訳なのですが、なんとも面白い落ちがありました。1日目、the 修学旅行な宿に部屋割りも大人数でハイテンションに過ごしました。そして翌日の宿はなんとホテルでかなり豪華!なんだ!いいじゃん広島 岡山 京都!とみんな沖縄に行けなくて残念なんて気持ちは思い出すことなく過ごしていたんです。ところが3日目の宿がご飯からも感じ



A組人狼ゲーム

取れるリーズナブル感と、2日目良すぎた反動でみんなどんより(笑)。

それから、新幹線の移動が長かったこともあって、クラスをまたいで携帯でできる人狼(じんろう)ゲームが大流行しました。ロビーの椅子にズラッと並んで座って、たまには先生も混ざったりして。これはすごく盛り上がっていたし、途中から男女で宿の階が完全別で立ち入り禁止になってしまったのもあって、みんなで集まれる機会がなかったので、そういう意味でもすごく記憶に残っています。(文責:松本悠希乃)

行事

行事と言えば体育祭、文化祭、球技大会、と思ひ浮かぶものは様々あります。どれも思い出深い行事ですが、その中でも体育祭は、校風の移り変わりを目の当たりにする行事となりました。私たちが高校に入学して初めての体育祭。団のカラーに髪を染めた先輩方。写真を見て驚かれた方もいるでしょう。そうなんです、3年間のあいだにこんなにも変化があったんです!

しかし校風の変化により、私たちが2年生になると染髪の禁止、さらには体育祭から体育的行事へと名前も変わってしまいました(3年生になるとまた体育祭へと戻りましたが…)。

今までのような体育祭が出来なくなるかもしれないと知った時、必死に話し合いを重ねてくれた体育祭実行委員の姿が忘れられません…。私たちは元の竹早の校風を知る最後の学年となってしまいました。私たちがいた頃から変化し始めた竹早高校。変化し続けることによって、竹早高校がよりよい高校になってほしいと思います!

また、私たちの学年には雨男雨女が多かったようで、常に悪天候に見舞われていました。

入学式に始まり、修学旅行は台風。体育祭では毎年砂嵐やスコール。遠足は3年間雨。2年次の文化祭は台風で最終日が中止に。晴れていた行事は数少ない…。

そんなことんついていない私たちも、とうとう卒業。終わり良ければ全て良し!と思ったら卒業式も雨でした。さらに体育館の工事のため、卒業式はお茶の水女子大学のホールで行うことになりました。

こんな悪天候と共に高校生活を過ごした私達ですが、今年で成人を迎えることが出来ました。振袖を決めたりスーツを用意したり。ワクワクしながら迎えた成人式。

やっぱり雨でした。(文責:秋葉美穂)



2012年度体育祭



2014年度体育祭

第9回 篁会特別セミナー実施報告

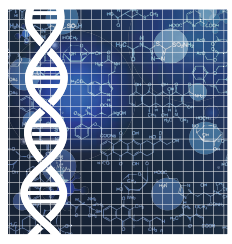
今回で9回目となる特別セミナーの実施状況を篁会の皆様にご紹介します。

開催日時は平成28年7月19日(火) 第5時限・6時限を使い、講座の種類・時間割は第5時限17講座、第6時限16講座で受講者277名です。OBの講師陣は18名で今年は理系出身者を多くお願いしたこともひとつの特徴でした。また、対象の学年を前年までの1年と2年全員から、1年生だけを対象としたことを受け、話の内容をあまり硬くしないように、話し手の現役のときにどんな将来を考えていたかなど生徒が自分の将来を考えるきっかけになるような配慮をしました。そのために話し手全員にあらかじめ集まっていただき、事務局の今年考えていること、講座の進め方を説明しました。たとえば、大学受験のご自身の選択した基準とか、高校1年のときの将来のイメージ、大学進学で何を学んだかなどご自身の体験に基づいたかなり個人的な領域に踏み込んだ話題をしてもらいました。そして現在のご自分の仕事のアウトライン、そこに至るまでの過程、就職活動で何を学んだか、今仕事でたいへんなこととか。

45分の授業時間がどこのクラスもあっという間に過ぎてしまった感じでした。

セミナー受講後のアンケートを生徒全員に書いてもらいましたが、1年の7月のタイミングでなかなか進路を具体的に描けないと想像していましたが、事務局が予想していたよりもはっきりと大学への進路、社会人になってどんな職業につくかなどについて深く考えている生徒が多くいたことに驚くと同時にこのセミナーの存在意義を強く感じました。11月の学校との反省会では次年度もぜひ篁会特別セミナーを継続してほしいと意向をいただきました。たくさんの卒業生の真摯な気持ちを大切に来年にむけて準備したいと思います。

セミナー委員会 高倉孝生



平成28年度 篋会特別セミナー講師一覧

NO.	氏名	タイトル	自己紹介	大学学部
1	吉川弘道	土木工学が築く日本のインフラストラクチャー	ゼネコンエンジニアと大学教授-似て非ならざるプロフェッション-: 私自身、(意図した訳ではありませんが) 企業(ゼネコン)から現在の大学に転身しましたが、研究・教育など業務に特段の違いはない。理系学生の場合、大学卒業後、企業(エンジニア/研究職)⇒博士号取得⇒大学教員/教官、も一つのキャリア形成の事例として紹介したい。(在学中:バスケット部 主将)	早稲田大学 理工学部 土木工学科
2	湯浅良文	文系から薬学部への選択	元来文系の人間でしたが3年生の時、姉姉から就職を考え理系を薦められ、大学進路を理系にしました。数学物理を主体としない薬学を選びましたが、時遅く受験に失敗、浪人生活を1年送りました。大学院を出てから、長年、薬学、化学の分野で研究者、技術者として携わってきました。	東京薬科大学 薬学部
3	木島明博	人生に疑問を持って東北大水産へ	僕は竹早高校に補欠の7番で入学しました。その後の実力試験で236番という数値を見て、世の中には頭の良い人がたくさんいるのだと感心したことを覚えています。高校紛争の華やかな時代でした。唯々人生や社会に疑問を持っている時代でした。人から離れて暮らすことを夢見て農学部へ、哺乳類の解剖が苦手なことに気づき海洋生物系へ。妙な縁で応援団入団へ、就職難だったので大学院へ。	東北大学 農学部 水産学科
4	水田茂夫	鉄メーカー(理系)から海外留学	高校時代に兄や恩師の勧めに従い理系を志望、大学でも基礎科学を専攻しメーカー(旧新日鉄)で技術者を務めていたが、米国留学を機に理系から文系に人生の進路を変更することを決心。社会人10年目でアメリカの投資銀行に転職。現在はフランス系銀行の東京支社で資産運用の仕事に携わっている。	東京大学 教養学部
5	藤田守哉	海洋物理から公認会計士	高校1年生の時は、将来どんな仕事をしたいという考えはあまりなく、漠然と文系よりは理系に進みたいと思っていました。3年生になり海のことに関わりたいたいということで東京海洋大学(当時は東京水産大学)に進み海洋物理を学びました。それが、アメリカの公認会計士になり、そこから米国系のファッションブランドのアジアおよび日本の社長にと全く違ったキャリアを歩みました。	東京水産大学 海洋学部
6	宮沢和正	ソニーから電子マネー「Edy」開発秘話	高校時代は、テニス部、放送部、文化祭での活動が印象に残っている。ロック、フォークなどの音楽に夢中、ソニーに憧れていた。ソニー入社後、テレビ、ビデオの中長期戦略立案の本部長室に配属され、その後、オーディオ、パソコンの管理部門。マレーシアの工場立ち上げ、アメリカ・シリコンバレーでパソコン事業立ち上げを経験し、日本初の電子マネー「Edy」の立ち上げ・普及に成功。	東京工業大学 経営学系
7	横山 衛	自分の道を突き進もう!	子供の頃から工作が好きでした。理系(機械科)の大学に進んだのは、数学と物理が好きで物造りに携わりたかったからです。中学・高校・大学とバスケットボール三昧。そのバスケットボール好きが就職後にも影響し、エンジニアとして入社したはずなのに、会社の子バスケ部コーチに就任することに。関東実業団リーグから日本リーグ昇格を目指す戦いの日々となりました。	東京理科大学 理工学部 機械工学
8	仲屋 宏	化学が好きで洗剤歯磨のライオンで研究開発	高校では、映画研究会と化学物理研究会。以降、映画鑑賞は年間100本と深みにはまりましたが部活からは離れ、化学物理研を同期4人で独占的に運営。その流れからなんとなく理系となり、最終的には化学系へ、現役で千葉大学理学部化学科に入学。専攻は有機合成化学です。卒業後、ライオン(株)に入社。衣類用洗剤他の国内製品開発研究ほかで25年間。縁あって現職へ。	千葉大学 理学部 化学科
9	山崎憲一	家業を継ぐはずが「海外でビッグプロジェクト」	商人の家系でしたので、高校時代、将来の進路については余り真剣に考えていませんでした。国語・漢文・歴史が全然駄目なので理系を選び、それでもどうせ自分の親の家業を継ぐのだと漠然と思っていた、高校・大学時代だった。高校・大学時代は硬式庭球部でした、自慢が出来るとすれば、高校・大学時代に生涯付き合っていく友人・先輩・後輩を得た事。皆に刺激され、夢を語り合い、就職は海外で仕事が出来た事を条件に会社を選びました。	早稲田大学 理工学部 資源工学科
10	大滝恒輝 古山浩之助	理系、ニューウエーブの発想	2015年の大学受験を突破して、現在物理を専攻する2年生の学生、J R東日本で安全対策・環境技術に生き、IT企業を創業した社長、その異色な二人が高校時代の進路選択で、何を悩み、どう決断していったかコラボを通じ、提言する。	筑波大学 横浜国立大学 電気
11	山田祥子	根っからの本好きが出版社へ	中学ではもっぱら文系・軟弱であったにもかかわらず卓球部に入部、即退部。大病を患ったこともあり、当時の学園紛争後の風潮に逆らってノンポリを決め込んだまま卒業まで過ごしました。立教大学で良き師良き友と巡り合うも就職は困難。唯一の取り柄「本好き」を認めてくれた恩師の紹介で、さる学術研究書出版社に拾われて25年勤めました。その後独立。日本文学・教育学の研究書を作り続けています。	立教大学 文学部
12	山岡京子	部活で培った体力こそが、編集者のベース	高校時代は軟式テニス部所属、引退まではひたすらテニス三昧の日々でした。大学ではなんとなく選択した英文科で、勉強もテニスもほどほどな生活を送り、卒業後は出版社に入社。以後、30年以上、雑誌や書籍の編集をしています。編集職は深夜残業も当たり前のハードな職場ですが、つけてこられたのは、中高時代に打ち込んだ部活のおかげかも。	東京大学 文学部
13	しゅうさえこ	NHK「おかあさんといっしょ」14代歌のおねえさん	NHK『おかあさんといっしょ』第14代うたのおねえさんとしてレギュラー出演(1981年〜)。オリジナル曲や童謡・抒情歌を軸としたソロコンサートや合唱団との共演、トーク&ライブを全国で展開中。幅広い年代の方へ向けて、日本人の心の抒情を大切にしながら唄い続けている。作詞作曲した作品はTV、CMで多数発表している。竹早高校在学中は、軟式テニス部に所属し活動に没頭する日々…。そんな中で見つけた“自分の道”が音楽でした。続きはセミナーにて!	東京藝術大学 音楽学部 声楽科
14	仲矢優子	子どもってすごいな	竹早で、決して優等生ではなかった私が、ひょんなことから小学校教師になって早35年。色々なことがありましたが、いつも思うのは「子どもってすごいな。子どもにはかなわないな。」ということ。大変なこともありますが、その何倍も喜びがあります。そんな教師の舞台裏、お聞かせします。	東京学芸大学 教育学部
15	佐藤哲夫	世界の農業発展を夢見て	在学中は、部活(サッカー)に注力、勉強は浪人時に集中的に勤しむ。新興国の農業発展に寄りたいと考え商社(トーマン)に入社。現在、豊田通商(株)食料・生活産業企画部所属。関連会社の安全、改善、環境、物流等を担当。	慶應義塾大学 経済学部
16	鈴木克洋	米英留学後、航空会社へ	大学までは社会から恩恵を受けて生きてきた、という思いがありました。就職は私にとって社会に対する還元であり「できるだけ社会に貢献したい」という気持ちが強かったです。3年間はあっという間にすぎます。大学選びは人生への最初の決断のポイントです。「決断」は決めて、断つと書きます。つまり、どちらかに進むという事は、どちらかを断る、つまり「あきらめる」ということです。理系に進むか、文系に進むか、それだけでも大きい変化があります。	中央大学 商学部
17	戸次聡史	自分の「思い」を世の中に伝えたい	高校時代は囲碁部と水泳部。カビ臭くて湿っぽい青春でした。じっと座ってられない落ち着きのない性格と、自分の『思い』を広く伝えられる仕事がしたいという動機から、報道機関に就職しました。主に事件記者として警察・検察・裁判所・弁護士などを取材しました。現在はネットでニュースや報道番組を発信する仕事をしています。	慶應義塾大学 商学部
18	廣瀬愛子	国家公務員、外交官について	父の仕事の関係で中学3年と高校1年をカナダで過ごし、竹早には高校2年で編入学しました。理系科目や古文・漢文の授業では全くついていけず、勉強は苦勞ばかりでしたが、同時に水泳部やクラスで良き仲間に出会えました。今も大切な友人達です。竹早卒業後は、上智大学へ。在学中、海外旅行に行ったりと、次第に国際社会、特にアジアに関心を持つようになり、外務省の試験を受けることに。	上智大学 法学部 国際関係法学

平成28年度篁会総会



平成28年度の篁会総会は6月18日土曜日に、湯島の東京ガーデンパレスにて開催されました。当番幹事の高校26回生が、受付、出席者の誘導に当たり、和やかな雰囲気の中、総会開催の運びとなりました。出席者は来賓を含め、約100名でした。



総会

司会の高校26回生の姫野賢治さんの開会宣言で、総会が始まりました。高校24回生の吉岡新副会長が議長に選任され、理事の紹介、新任退任理事の承認、幹事の選任が行われました。その後、平成27年度の事業報告、決算報告、監査報告が行われ、承認されました。引き続き、平成28年度の事業計画案、予算案の趣旨説明が行われ、満場の拍手で承認されました。

講演会

今年度は高校26回生より、二人の講師に30分ずつ講演して頂きました。

宮沢和正さん（楽天Edy株式会社理事、株式会社ビッグデータ共創機構代表取締役）のお話「電子マネーの技術とビジネス展開、15年の軌跡」は、日本の電子マネーの草分け的存在である同氏の、電子マネー開発の軌跡を伺いました。何より、身近に電子マネーの開発者がいたことへの驚きと、その開発秘話で30分が瞬く間に過ぎました。



宮沢和正さん

窪川かおるさん（東京大学理学系研究科特認教授）は「海洋生物との出会いから海に魅せられて」というテーマで、ナメクジウオが実は人間の祖先に近いという事実をわかりやすく説明して頂き、竹早高校の生物室で授業を受けていた頃のわくわく感を時空を超えて味わうことができました。



窪川かおるさん

懇親会

懇親会は例年と異なり、座席指定のない自由な雰囲気での立食形式でおこなわれました。まずは、古関恵一会長のご挨拶があり、現竹早高校校長の高田純一先生のご祝辞を頂きました。次に、本日の出席者の中で最も先輩である、高校2回生の長縄泰子さんに乾杯の音頭をとって頂きました。長縄さんのしっかりとされたご発声に、懇親会が和やかに幕を開けました。



古関会長

約2時間、それぞれ席を移動しての楽しい懐かしい歓談に旧交を暖めました。また、理事が在校生の奨学金の原資となるTシャツの販売をしており、ご協力頂いた方も多数ありました。竹早高校で地理の教鞭を執っていらした土屋正孝先生のお言葉を頂き、昔と変わらずの土屋節を堪能いたしました。そして、高校26回生にとっては2年3年のA組学級担任であり、物理の先生でもいらした濱和廣元校長先生のハーモニカ伴奏で、全員で「ゆりかごの歌」を歌いました。柔らかなハーモニカの音色に心暖まるひとときでした。

最後に、例年通り、東京府立第二高等女学校の校歌と、東京都立竹早高等学校の校歌を全員で斉唱しました。また、来年の幹事学年を代表して高校27回生の松永茂樹さんよりご挨拶を頂きました。全員での記念撮影を終え、来賓への感謝、担当スタッフへの感謝をしながら、名残惜しくも散会となりました。



越智（田中）久美子（高校26回生・篁74回生）



関西篁会だより

関西篁会 幹事会



雲一つない秋晴れの平成28年11月26日(土)平成28年度関西篁会総会は例年通りホテルグランヴィア大阪で開催されました。今回も参加者が少なく、残念でしたが、優しい娘さんや息子さんに送ってもらわれた高女出身の方々の温和な笑顔に心なごみました。簡単な報告の後は美味しいお食事を頂きながら人生大先輩の含蓄ある話をお聞きし、懐かしいおしゃべりで楽しい一時を過ごしました。

又、今後に残された課題も多く 中々妙案が出ないので会員の方々へのアンケート等で意見をまとめてゆきたいと思っています。平成29年度関西篁会総会は平成29年11月25日(土)に昨年同様ホテルグランヴィア大阪で行いますので皆様ぜひ進化続ける大阪を見にお越し下さい。最後に篁会の益々のご発展を祈念しております。



湘南篁会だより



平成28年5月12日、総会・懇親会を、例年通り「鎌倉プリンスホテル」で行いました。本年は、高女出身の方のご出席が1名となり、出席者も全員で僅か7名でした。懇親会は、恒例の松本前会長(高女41回生)の乾杯で始まり、食後は金子浩子様(高校2回生)から「いっしょに考える日本語と私たち」とのテーマで話をいたしました。

なお、29年度の総会・懇親会を、5月10日(水)12:00より、「鎌倉プリンスホテル」で行います。地域外の方々、また若い方々のご参加下さることを切に願っています。

影本昌則(高校6回生・篁54回生)

箠会教育基金・奨学生認証式

箠会では、2012年度より箠会教育基金を設け、在校生への奨学金授与を行っております。竹早高校の生徒が将来の夢を実現するための一助になればと開設された制度です。2016年度も5月から募集を行い、7月に竹早高校で奨学生の候補者を選定していただきました。竹早高校の総務担当主任若杉良一先生には、募集から選定まで大変お世話になりました。ここに御礼申し上げます。

2016年度は、3人の生徒に奨学金を授与することとなりました。3年B組田中恵利さん、3年C組大西直己さん、3年D組田中真利さんです。田中恵利さんと田中真利さんは、双子の姉妹だそうです。3人とも成績は学年上位で、遅刻欠席もなく、明確な進路目標を持っているそうです。

認定式は7月14日(木)15:00より、竹早高校校長室において行われました。学校側からは高田純一校長先生、鈴木宏治副校長先生、総務部主任若杉先生ほかの皆様にご参加いただき、また父母と教師の会の役員、箠会の古関会長、高倉理事ほかが出席し、古関会長より3人にそれぞれ認定証および8万円の奨学金が授与されました。勉学を進めるうえで役立てていただければ幸いです。

3人とも、卒業後はぜひ箠会の活動にご参加いただき、同窓生とともに竹早高校の益々の発展に寄与していただけるものと期待しております。
(箠会教育基金事務局)



大西 直己

私は、高校を卒業後、大学でドイツ語を学ぼうと考えています。

そもそもは中学生の時に、ある東京の伝統工芸品と出会い、その魅力の虜となったことがきっかけでした。その伝統工芸品は、現在後継者が少ないのが現状です。これを何とかしたいと色々考え、手工芸が息づくドイツの文化に触れれば、何かヒントが得られるのではないかと考えたのです。

将来、伝統工芸品江戸指物を広め伝えることに少しでも貢献したいです。

私は竹早高校で3年間を過ごし、将来外国と関わるような仕事をしたいと思うようになりました。帰国生の友達から外国の話聞き文化の違いを知り、体育祭や文化祭などの行事では生徒が主となってつくりあげたりと、竹早高校でしかできない様々な経験をすることができました。それらを大学に進み、さらに社会に出て仕事をしていく上で活かしていきたいです。

田中 恵利

田中 真利

私は将来、製薬開発に携わりたいと考えています。きっかけの一つは「箠会特別セミナー」でした。なかなか聞けないような仕事のお話をしてくださり、質問にも親身になって答えていただき、とても有意義なものでした。このような機会がある竹早高校で過ごした3年間で基礎に、大学で多くのことを学び、将来に向かって成長し続けていきたいです。

学校の活動報告

箠会の皆様には竹早高校の教育活動のために、常日頃から多くのご支援・ご尽力を賜り、生徒及び教職員一同、深く感謝しております。

平成28年度は、7月に現ANA社長である篠辺修氏(S46年竹早高卒)をお招きし、特別講演会を開催しました。また、同月計19名の講師による1年生を対象にした箠会特別セミナーを実施しました。各講師のお話は大変興味深く、生徒たちの視野を広げる契機となりました。9月に行われた竹早祭では、本年もお休み処「たかむら」で飲み物やお菓子を提供していただき、来場者をもてなしていただきました。また、3年生徒3名に箠会教育奨学金をいただき、感謝しております。

大学合格状況は表1のとおりです。卒業生数は昨年より1クラス減ですが、国公立大は今年も40人台を維持することができました。部活動では、ダンスパフォーマンス部が今年も全国大会に出場するなどの活躍が見られました。学校説明会等への来校者数は表2、入試の実質倍率は表3のとおりです。今年、募集対策を充実させる取組を強化し、来校者数や入試倍率増という成果をあげることができました。

今後とも、良き伝統を踏まえた竹早高校の教育活動をさらに発展させるために、引き続きご尽力いただきたく、お願い申し上げます。

平成28年度年間行事()は日付

4月	土曜講習(9～)*1、始業式(6)、入学式(7)、対面式(8)、1・2年課題テスト(8)、2・3年保護者会(16)、健康診断・体カテスト(21)、生徒総会(25)
5月	校外学習(2)*2、父母と教師の会総会(14)、体育祭(16)、中間考査(27～6/1)
6月	授業公開・保護者会(11)、2・3年進路オリエンテーション(20)
7月	期末考査(1～6)、1・2年模擬試験(11)、特別講演会(14)、箠会特別セミナー(19)、終業式(20)、部活動夏季合宿(21～)*3、夏期講習(21～)、学校見学会(26～)
8月	学校見学会(～10)、部活動夏季合宿(～16)*3、British Hills団体宿泊研修(22～24)、夏期講習(～29)
9月	始業式(1)、3年推薦・センター試験説明会(1)、1・2年課題テスト(1)、竹の子祭(8、9)、竹早祭(10、11)、1年宿泊を伴う防災訓練(30、10/1)
10月	学校説明会(10)、中間考査(21～26)
11月	模擬試験(4)、開校記念日(7)、国際理解講演会(14)、授業公開・学校説明会(19)
12月	期末考査(6～9)、学校説明会(10)、終業式(25)、合唱コンクール(21)
1月	学校説明会(7)、始業式(10)、1・2年課題テスト(10)、2年修学旅行(沖縄17～20)推薦入試(26、27)、1・2年模擬試験(30)
2月	2年保護者のための進路講座(4)、帰国入試(17)、1・2年進路講演会(20)、学力検査(24)
3月	卒業式(4)、学年末考査(7～10)、2年模擬試験(13、14)、オリンピック講演会(21)*4、合格体験報告会(23)、修了式(24)

- *1 土曜講習 予備校講師による大学受験に向けた英語・数学の講習
前期(4～9月)、後期(10月～2月)各10回実施
- *2 校外学習 1年:長瀬 2年:横浜 3年:東京ディズニーランド
- *3 夏季合宿
サッカー、軟式野球、男子バスケットボール、男子硬式テニス、女子硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、男子バレーボール、女子バレーボール、吹奏楽、天文、箏曲
- *4 オリンピック講演会 アトランタオリンピックシンクロナイズトスイミングチーム銅メダリスト 竹村(旧姓:高橋)馨氏による講演会

表1 大学合格状況

国公立大学	H29	H28	H27	私立大学	H29	H28	H27
帯広畜産	1			早稲田	40	39	25
弘前			2	慶応義塾	7	9	10
東北	1		1	上智	7	16	9
秋田	1			東京理科	15	22	15
山形	1			明治	54	41	59
筑波	2	6	3	青山学院	11	24	19
茨城	1		1	立教	36	57	45
群馬		1		中央	19	34	25
埼玉	6	9	6	法政	59	46	47
千葉	2	6	8	学習院	5	12	13
お茶の水女子			1	芝浦工業	18	32	16
東京外国語		2	2	東京都市	1	10	6
東京海洋		1	2	東京農業	22	15	34
東京学芸	3	3	1	國學院	8	6	7
東京藝術			1	成蹊	10	11	4
東京工業			1	成城	5	8	12
東京農工		2	1	武蔵	12	13	23
電気通信	1	2		明治学院	10	13	17
横浜国立	3	4	2	日本	42	58	44
新潟	1	1		東洋	57	76	86
信州	1			駒沢	13	18	17
静岡	1			専修	6	5	12
山梨	1		1	津田塾		2	0
富山		2		東京女子	2	1	4
香川			1	日本女子	5	8	11
高崎経済	1			その他	125	182	143
琉球		1		私立合計	589	758	703
埼玉県立			1				
首都大学東京	8	2	3				
横浜市立	2						
大阪府立	1						
北九州市立	1		1				
気象大学校	1						
防衛大学校			1				
看護大学校	1	2	2				
職能開発総合大学校	1	1					
国公立合計	41	45	42				

数値は現浪のべ合格者数である。
H29はH29年3月末の数値である。
H28年卒業生は7クラス(他は6クラス)

表2 来校状況

	H28	H27	H26
学校見学会	2,389 (12回)	1,930 (12回)	1,390 (10回)
竹早祭	4,437	3,909	4,109
学校説明会	2,310	1,735	1,091

表3 入試状況(実質倍率)

	H29	H28	H27	
帰国	2.29	1.85	1.21	
推薦	男子	4.43	2.74	3.13
	女子	6.43	5.44	5.14
一般	男子	1.80	1.45	1.47
	女子	2.20	1.89	1.70
募集(クラス数)	6	7	6	

理事会報告

平成 28 年度の理事会活動は以下の通りです。

●第1回理事会 6月7日 出席理事13名 委任状8名

- 承認事項
 - ・新理事推薦の件 宮沢和正氏、三野直子氏、大貫祥子氏
 - ・理事退任の件 今井大弥太氏
 - ・総会進行次第について
- 報告事項
 - ・特別セミナー準備について
 - ・会報編集委員会編成について
 - ・会費納入状況について
 - ・総会準備進捗状況

●第2回理事会 7月26日 出席理事11名 委任状9名

- 承認事項
 - ・竹早祭出店「お休み処」に篁会の案内をおく。お品書きを同窓生書道家に描いてもらうという提案。
 - ・新副会長推薦の件 高倉孝生理事
 - ・理事退任の件 風間玲子氏
 - ・会計、書記担当について
- 報告事項
 - ・平成 28 年度篁会総会の報告
 - ・篁会教育基金奨学金認定式の報告（7月14日、3名に授与）
 - ・竹早高校 特別講演会支援の報告
 - ・特別セミナー報告

●第3回理事会 9月26日 出席理事10名 委任状5名

- 承認事項
 - ・Web サイト委員会の充実化を図る。
 - ・理事一時退任の件 鈴木克洋理事（海外赴任のため）
 - ・同窓会連絡協議会への対応について
- 報告事項
 - ・竹早祭出店「お休み処」報告
 - ・学年幹事・部活幹事連絡会親睦会延期の報告
 - ・会報編集委員会より会報編集委員会始動の報告
 - ・特別セミナー委員会反省会の結果報告

●第4回理事会 1月21日 出席理事12名 委任状3名

- 承認事項
 - ・来年度特別セミナー実行計画案について
 - ・来年度予算案について
 - ・会報へ掲載する Web サイト委員会からの記事について
 - ・同窓会連絡協議会・校歌祭に有志グループが参加することについて
- 報告事項
 - ・特別セミナー委員会より高校サイドとの反省会の報告
 - ・城戸崎元会長の著書寄贈について
 - ・NHK 大河ドラマ取材について
 - ・平成 28 年度収支報告書の中間報告

●第5回理事会 4月3日 出席理事11名 委任状7名

- 承認事項
 - ・今年度決算報告と 2017 年度予算案について
 - ・篁会会報内容に関する最終確認
 - ・古閑会長任期満了に伴う次期会長推薦の件：篠田修氏
- 報告事項
 - ・若い世代にアピールする企画「ホームカミングデー（仮称）」の提案
 - ・名簿委員会より名簿未登録者の確認及び篁会未会入者について
 - ・特別セミナー委員会より次回開催に向けて進捗状況の説明
 - ・「東京校歌祭」準備委員会発足について

<その他>

- 4月7日 竹早高校入学式に参列
- 5月16日 竹早高校体育祭を観戦
- 6月16日 平成 28 年度篁会総会・懇親会：ホテル東京ガーデンパレス 篁会教育基金・奨学生認定式
- 7月14日 特別セミナー開催
- 7月19日 特別セミナー開催
- 9月10、11日 竹早祭に「お休み処」出店
- 10月22日 第10回篁寿会開催：学士会館
- 1月21日 新年会：竹早高校、父母と教師の会との合同
- 3月4日 竹早高校卒業式に参列
- 3月27日 会計監査実施

篁会 平成28年度収支報告(案)

平成28年4月1日より平成29年3月31日まで

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	19,463,097		
<small>(特別会計を含む)</small>			
入会金(新入会員215名)	1,720,000	総会開催関係費	728,631
年会費	2,788,000	贈呈記念品費	213,672
総会会費	501,000	会報発行費	2,797,200
篁寿会会費	348,000	Webサイト運営保守(*1)	904,144
受取利息	234	総務費	375,618
寄付	264,169	奨学金	240,000
<small>(竹早祭時のワンコイン募金等)</small>		諸事業経費(*2)	613,364
雑収入	88,500		
<small>(Tシャツ、USBメモリ等売上純益等)</small>			
小計	5,709,903	小計	5,872,629
		次年度繰越金	19,300,371
		<small>(特別会計を含む)</small>	
合計	25,173,000	合計	25,173,000

次年度繰越金には下記を含む

周年事業基金	1,628,994
教育基金	1,388,763
<small>(奨学金減算、雑収入と寄付金53,606円加算)</small>	
高女記念碑基金(篁寿会より)	243,600
基金合計	3,261,357

期末の現金預貯金等の残高

現金	46,294
ゆうちょ銀行 通常貯金	2,094,596
ゆうちょ銀行 定額貯金	12,000,000
ゆうちょ銀行 振替口座	4,409,916
みずほ銀行 普通預金	749,565
合計	19,300,371

(*1)には下記を含む

内訳	金額
ドメイン維持費	4,320
年間保守料	886,000
Jimdoサーバ使用料	13,824
合計	904,144

(*2)には下記を含む

事業内容	金額
竹早祭企画	60,545
篁寿会	453,691
篁特別セミナー	99,128
合計	613,364

篁会 平成29年度収支予算(案)

平成29年4月1日より平成30年3月31日まで

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	19,300,371		
<small>(特別会計を含む)</small>			
入会金(新入会員)	1,900,000	教育支出 奨学金(特別会計から)	
年会費	3,000,000	教育援助金(特別会計から)	
総会会費	500,000	贈呈記念品費(1年・3年)	220,000
篁寿会会費	380,000	篁会特別セミナー(1年)	120,000
受取利息	500	会報発行費	2,800,000
寄付	250,000	活動推進事業 竹早祭出店	70,000
雑収入	50,000	篁寿会	200,000
		学年幹事連絡会	100,000
		活性化プロジェクト(新規)	100,000
小計	6,080,500	総会開催関係費	800,000
		総務費	150,000
		Webサイト運営保守	920,000
合計	25,380,871	小計	5,480,000
		特別会計へ移動	15,261,357
		次年度繰越金	4,639,514
合計	25,380,871	合計	25,380,871

特別会計			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
周年事業基金 前年度繰越	1,628,994	活性化プロジェクト補助金	200,000
一般会計から移動	7,000,000	奨学金(3年)	300,000
教育基金 前年度繰越	1,388,763	教育援助金(全学年)	100,000
一般会計から移動	5,000,000	小計	600,000
高女記念碑基金前年度繰越	243,600	次年度繰越	14,661,357
基金合計	15,261,357	基金合計	15,261,357

次年度への繰越金合計: 19,300,871

ゆうちょ銀行定額貯金は、周年事業基金に700万円と教育基金に500万円に振り分ける。

篁会の年会費、懇親会費はインターネットでのクレジット決済が可能になりました。

2016年5月1日から新しいシステムが利用できます。

これまで、年会費、総会の会費は郵便局からの振替用紙で行われていました。これからは、それに加えて、篁会Webサイトからクレジット決済が可能です。パソコンやスマートフォンから簡単にお支払いいただけます。

年会費は今年から2口以上となります。

クレジット決済の場合は、

2口以上の口数を入力してください。

また、今年の総会懇親会会費(7,000円)、Tシャツ購入の代金のお支払いもクレジット決済をご利用いただけます。

※クレジット決済の手数料は篁会が負担します。

郵便振替の場合は従来通り手数料をご負担ください。

篁会は会員の皆様の年会費で運営されています。
皆様方のご協力、よろしくお願いいたします。



謹んでご冥福をお祈り申し上げます

■高女・専攻科

(敬称略)

篁会	回数	卒年	クラス	氏名	旧姓	逝去日
篁24回	高女24回	1924		永山 漣子	平岡	2006/6/
篁27回	高女27回	1927	甲	八木 隆子	山田	2009/3/4
篁27回	高女27回	1927	乙	伊勢村 敏		2010/2/25
篁27回	高女27回	1927	乙	桜井 千鶴子	市川	2016/5/5
篁28回	高女28回	1928	甲	吉村 文代	河本	2008/2/24
篁28回	高女28回	1928	乙	内藤 花	石崎	2011
篁30回	高女30回	1930	甲	小崎 絢子	田口	
篁30回	高女30回	1930	甲	八杉 泰子	小幡	2016/7/31
篁30回	高女30回	1930	乙	坂口 正代		1994/6/23
篁30回	高女30回	1930	乙	村瀬 正子	柳沢	2016/4/19
篁31回	高女31回	1931	甲	領家 玉喜		2013/12/10
篁31回	高女31回	1931	乙	五十嵐 秋子	池上	2014/10/
篁33回	高女33回	1933	甲	小川 弘	松島	2014/1/8
篁34回	高女34回	1934	甲	牧田 美佐子	河野	2015/10/9
篁35回	高女35回	1935	紅	相沢 清子	大津	2016/8/13
篁36回	高女36回	1936	白	河村 篤子	古田	2014/10/16
篁37回	高女37回	1937	白	笠間 千恵	築山	2006
篁37回	高女37回	1937	白	高原 伊左子	徳本	2016/1/9
篁37回	高女37回	1937	白	安原 千枝子	参本	2015/11/17
篁37回	高女37回	1937	紅	福本 嘉代	亀山	2015/7/16
篁40回	高女40回	1940	紅	泉 敬子		2016/2/15
篁41回	高女41回	1941		安藤 敏	森	
篁42回	高女42回	1942		大澤 正子	白田	2016/10/11
篁42回	高女42回	1942		太田 英子	伊藤	2014/6/5
篁43回	高女43回	1943		大石 嘉代子	吉永	2016/8/5
篁43回	高女43回	1943		岡井 美代子	大島	2010/3/
篁43回	高女43回	1943		廣岡 恵子	倉西	2009/9/19
篁44回	高女44回	1944		岡本 昌江	今村	2016/4/4
篁44回	高女44回	1944		佐々木 晶子	伊原	2014/2/10
篁44回	高女44回	1944		佐藤 智恵	伊東	2016/12/1
篁44回	高女46回	1945		秋山 美重	稲木	2016/10/22
篁45回	高女45回	1945		小田切 信枝	瀬川	2015/7/17
篁46回	高女46回	1945		大坪 薫	梅山	2016/12/19
篁46回	高女46回	1945		菊地 操	岩田	2016/5/27
篁46回	高女46回	1945		築野 友子	泉山	2015/7/14
篁46回	高女46回	1945		中村 淑子	松田	2016/9/19
篁47回	高女47回	1946		荒久保 治子	杉本	2016/4/13
篁47回	高女47回	1946		岸本 雪恵	中島	2014/1/10
篁47回	高女47回	1946		佐藤 和子		2015/9/24
篁47回	高女47回	1946		定塚 千恵子	柳川	2015/8/24
篁48回	高女48回	1948		菅野 圭子	秋山	2016/4/1
篁48回	高女48回	1948		真木 由紀子	山本	2016/11/19
篁44回	専攻科1回	1944		吉塚 淑子	富樫	2015/6/

■高校

(敬称略)

篁会	回数	卒年	クラス	氏名	旧姓	逝去日
篁51回	高校3回	1951	C	市原 静子	玉川	2016/10/13
篁51回	高校3回	1951	C	御代 喜久子	山崎	2015/12/11
篁51回	高校3回	1951	E	行武 英子	中川	2015/8/
篁53回	高校5回	1953	B	貴答 厚		2009/8/20
篁54回	高校6回	1954	B	樋口 一男		2015/10/10
篁54回	高校6回	1954	D	青梅 喬一郎		
篁55回	高校7回	1955	D	栗木 黛子	川島	2016
篁56回	高校8回	1956	C	櫻井 吉子	山本	2015/4/21
篁57回	高校9回	1957	A	中嶋 正敏		2016/7/
篁58回	高校10回	1958	D	高野 泰雄		2013/4/
篁58回	高校10回	1958	F	西村 佐和子	富川	2005/6/24
篁61回	高校13回	1961	B	秋山 尚明		2015/6/
篁61回	高校13回	1961	E	高橋 章夫		2013/12/15
篁61回	高校13回	1961	E	西出 紀彦		2015/10/
篁65回	高校17回	1965	D	Hellstrom 淑子	土屋	2008/6/4
篁67回	高校19回	1967	A	門田 茂		2016/7/
篁67回	高校19回	1967	A	山下 光治		2015/11/
篁67回	高校19回	1967	F	鈴木 志津子	鈴木	2016/5/10
篁68回	高校20回	1968	F	塚島 ひさ子	鈴木	2010/3/19
篁70回	高校22回	1970	B	宮内 信之		1992/7/
篁73回	高校25回	1973	F	星野 克彦		2013/2/14
篁75回	高校27回	1975	B	大塚 廣人		
篁75回	高校27回	1975	E	森 真理子	北村	
篁76回	高校28回	1976	A	山崎 裕		2016/3/26
篁76回	高校28回	1976	C	宮本 美恵	練木	
篁76回	高校28回	1976	E	松浦 孝昭		2005
篁76回	高校28回	1976	E	森田 昌子		
篁90回	高校42回	1990	C	上坂 武史		2016/2/

■教員

(敬称略)

篁会	回数	卒年	クラス	氏名	旧姓	逝去日
				天野 恵司		2015/10/23
				藤田 政雄		2006/9/

【お詫び】

2016年の会報(No.27)の計報欄において、篁68回・高校20回の新 裕司さんが誤って記載されてしまいました。新さんはお元気でいらっしゃいます。謹んでお詫びいたします。

正確な情報をお伝えしていくよう、万全を期してまいります。

会員の皆さん！

理事会では70歳以上の会員の方々に篁会活動に継続的に参加していただきたいと考えております。

総会幹事学年を担当して10年が過ぎようとしています。もう一度あのメンバーで幹事をやるとしたら、参加できなかったからやってみたい、などと思いませんか。やるなら、こんな会を企画したい、あいつも呼びたい、…とか。同期が再会してもう一度挑戦してみませんか。

シニアの、シニアのための、シニアだけの合同同期会を準備したいと考えています。それなら、こんなのはどうか。いややめた方がいい。やっぱり面白いかも。いろいろご意見をお寄せいただけますか。人生は出会いに始まります。夢の再会を計画しようと考えています。

また、50歳代の方々には総会担当を前に、「まだまだヤング会」などいかがですか。青年の気概と心が息づいている皆さん。同期だけでなく一緒に学んだ先輩、後輩の顔を見たいと思いませんか。

ちょっと大人の会合です。集まりましょう。でも幹事は誰なんだ？そこです。だから、やってみたい、いろいろなご意見を聞かせてください。

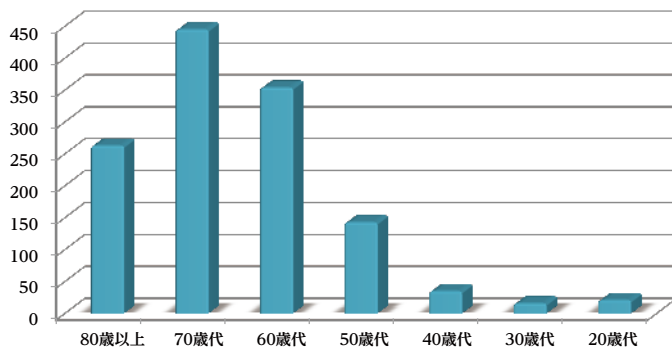
連絡先

Eメール takamurakai@gmail.com 「シニア・ヤング会」と書いてください。

はがき 宛先 〒112-0002 東京都文京区小石川4-2-1

東京都立竹早高等学校内 篁会

篁会へのご理解ご協力に心から感謝申し上げます。 会費を納入いただいた篁会会員1,307人のグラフです。



平成26年に会費を納入していただいた会員数を年代別に整理したのですが、シニア層で多く、50歳代から若い世代にかけて、少なくなっていることがわかります。皆さんの活動参加が一層期待されるとともに、若い世代の会費納入率アップが課題となっています。昨年から導入したクレジット払いの利用者は徐々に増えています。どうぞ活用ください。



篁会Tシャツは
ウェブサイトから
購入できます。

委員会からの お知らせ

Webサイト委員会



篁会 Web サイトにあなたのご意見を

篁会は発足した1901年から数えて、通算116年目を迎えました。

篁会も歴史を重ね、諸先輩がたから若い世代まで様々な世代の人々で構成されています。

現代は、スマートフォンやインターネットが普及し、人工知能やビッグデータを活用した様々なサービスが検討されており、第4次産業革命の到来などと言われています。このような時代の流れの中、FacebookやLineなどを自由自在に駆使するいわゆる“デジタル・ネイティブ”な世代が誕生する一方で、インターネットの利用よりも紙媒体の方が親しみやすい方も多くいらっしゃる、などコミュニケーション手段も多様化しています。

しかしながら、社会の技術・サービスやコミュニケーション手段が変化していても“人と人の繋がり”の大切さは、いつの時代でも変わらない”と思います。幅広い篁会の世代間の交流を深め、卒業生と母校や在校生及びその保護者の皆様を繋いで行くために、篁会会報や篁会Webサイトがその“人と人との繋がり”のお手伝いをする事ができれば幸いと考えています。

そのためにWeb委員会としては、今後さらなる改善を検討しています。具体的には、①迅速な情報公開のための情報収集ルールや運営管理体制の改善、②魅力あるWeb

サイト構築のための様々な意見の収集と改善、の2点について検討を開始しています。

会員の皆さんに、篁会の活動に積極的に参加しようという意識を目覚めさせるメッセージや魅力あるイベントを伝達し、母校の最新の情報を提供し、会員が企画する活動を支援することができればと考えております。また、若い世代のみなさんの意見をぜひ取り入れて、様々な世代の方々にとって興味を持っていただけるWebサイトの実現を目指しております。

しかしながら、Web委員会のメンバーのみでは、迅速かつ十分な情報収集は困難であり、卒業生、母校、在校生、保護者の方々、理事や各種委員会の皆様の情報提供が不可欠です。ぜひ、皆様がたからの積極的な情報提供やWebサイト改善に関するご意見をいただきたいと思ひます。

なにとぞ、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

篁会Webサイトへの情報提供及び改善などのご意見はWebサイト委員会までメールにてお願ひいたします。
(takamurakai@gmail.com 「Webサイト委員会」まで)

篁会 Web サイト

篁会

検索

■ 出版企画委員会

会報(2016 No.27)で「私たちの竹早」の制作を企画しました。誌面で楽しい思い出のメモの募集をお願いいたしましたところ、心温まる内容を多数いただきました。ありがとうございました。

現在、残念なのですが、いろいろな事情で本の制作を中断しております。作業再開の折には頂いた資料を活かせるよう努めたいと考えております。ご協力いただいた方々には感謝の気持ちを込めて景品を発送させていただきます。

■ 2016年「学年幹事会・部活幹事連絡会」開催について

会報(2016 No.27)で 開催を計画しておりました同会は都合により開催を中止いたしました。

出席を希望されていた方々には大変ご迷惑をおかけしました。関係理事一同よりお詫び申し上げます。

2017年度は新しい企画で活動を提案していきます。

宜しくお願いいたします。

これからもお力添えよろしくお願ひいたします。

2020年！オリンピック東京大会です。

その年

竹早高校も府立第二高等女学校と通算して、

120周年を迎えます。

篁会では斬新で、楽しい、思い出に残るイベントを開催したいと考えています。

そこで、夢のある企画、アイデア大募集です。

若い皆さん、思い出が遠くなりつつある先輩、

みんなのちからで何かを残してみませんか。

皆さんからのアイデア満載にして、夢のある計画に

していきたいですね。

ご意見はメールにて takamurakai@gmail.com へ。

「120周年」と書いてください。はがきでもお寄せください。

あて先は「竹早高校気付 篁会」まで。



篁会役員

<平成29年4月現在>

会長	古関 恵一 (篁77回生)	理事	加藤幸太郎 (篁72回生)	理事	青山 俊也 (篁77回生)
名誉会長	高田 純一 (竹早高校校長)	理事	伊坂 道子 (篁72回生)	理事	飯塚 均 (篁77回生)
顧問	星野 昌子 (篁50回生)	理事	高橋 政行 (篁73回生)	理事	鹿住 倫世 (篁82回生)
顧問	磯貝 恵三 (篁55回生)	理事	花澤 聖子 (篁73回生)	理事	戸次 聡史 (篁82回生)
顧問	松本 紀子 (篁41回生)	理事	姫野 賢治 (篁74回生)	監事	佐藤美紗子 (篁64回生)
副会長	中村 光宏 (篁71回生)	理事	宮沢 和正 (篁74回生)	監事	橋本 正己 (篁71回生)
副会長	高倉 孝生 (篁71回生)	理事	川戸 直美 (篁74回生)	アドバイザー	香川 洋子 (篁68回生)
副会長	薩田須美子 (篁72回生)	理事	三野 直子 (篁74回生)	アドバイザー	岩野 英子 (篁68回生)
理事	古山浩之助 (篁64回生)	理事	大貫 祥子 (篁74回生)	アドバイザー	吉岡 新 (篁68回生)
理事	松澤由利子 (篁70回生)	理事	松永 茂樹 (篁75回生)	アドバイザー	水田 茂夫 (篁71回生)
理事	塩見 健 (篁72回生)	理事	山口 順子 (篁76回生)		

会報編集委員会

委員長	大貫 祥子 (高校26回生)	三野 直子 (高校26回生)
委員	吉岡 新 (高校21回生)	宮沢 和正 (高校26回生)
	松澤由利子 (高校22回生)	松永 茂樹 (高校27回生)
	薩田須美子 (高校24回生)	山岡 京子 (高校27回生)
	高橋 政行 (高校25回生)	山口 順子 (高校28回生)
	秋末 直美 (高校26回生)	秋葉 美穂 (高校67回生)
	折江 宏道 (高校26回生)	大滝 恒輝 (高校67回生)
	川戸 直美 (高校26回生)	五月女裕太郎 (高校67回生)
	酒井 順子 (高校26回生)	松本悠希乃 (高校67回生)
	姫野 賢治 (高校26回生)	
	廣川 州伸 (高校26回生)	

篁会報



発行日 2017年4月28日
発行 篁会
〒112-0002
東京都文京区小石川4-2-1
東京都立竹早高等学校内
連絡用電話 090-8853-1901
<http://www.takamurakai.com>
編集 篁会 会報編集委員会
印刷 共立速記印刷株式会社
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋 3-11-24
表紙クラフト製作 小松原敬子 (高校27回生)

